

序章

3

一 飼い慣らされた火 3

二 日本の焼畑研究史 8

同時代的研究／歴史的研究

三 焼畑の環境史とその課題 20

焼畑の近世的展開と「進化」／土地制度史と焼畑／火と植生のポリテクス

四 本書の構成 29

第I部 近世日本の焼畑と検地

第一章 紀伊山地における焼畑の展開と「進化」

37

はじめに 37

一 紀伊山地の概観 38

紀伊山地の自然と山村／近代における焼畑の分布

二 近世の焼畑とその農法的特徴 42

中・近世の焼畑分布／作物構成と地域類型

三 樹木栽培の展開と植生への影響 50

休閑期間の「半栽培的」植物利用／樹木栽培の進展と植林／植林と焼畑の間で

おわりに 58

第二章 出羽国村山郡におけるカノの展開と検地

はじめに 61

一 検地におけるカノ畑の処遇 63

羽前地方の概況／鳥居領山形藩の元和検地／保科領山形藩の寛永検地／酒井領検地と幕府領寛

文・延宝検地

二 カノ畑の分布と所持 73

広域的な分布の概況／田麦野村元和検地帳の検討／狸森村元和検地帳の検討／砂子関村寛文検

地帳の検討／カノ畑の経営的性格

三 カノの農法的性格とその変化 87

作付け期間と作物／カノ畑の拡大傾向とその意義

おわりに 93

第三章 太閤検地における山畑と焼畑

はじめに 98

一 織田検地 102

柴田勝家検地／丹羽長秀検地

二 西国の天正太閤検地 107

瀬戸内島嶼の山畠／紀伊・大和国秀長検地／阿波国蜂須賀検地／肥後国検地

三 天正の外様大名検地 114

長宗我部検地／毛利検地／徳川五カ国検地

四 東国の天正太閤検地 120

陸奥国会津検地／信濃国検地／駿河国検地

五 文禄・慶長検地 130

豊臣直轄検地／甲斐国浅野検地／島津領検地／徳川領検地

おわりに 145

## 第四章 地方書にみる焼畑とその概念

はじめに 152

一 一七世紀の地方書と「山畠」検地 154

「山畠」検地の技法／『地方竹馬集』にみる「刈生畑」

二 焼畑をめぐる語彙と地目 161

「焼畑」の登場と諸国山川掟／「二毛作り」と「一毛畑」／焼畑を示す多様な地目

三 総称的概念としての「焼畑」 168

『地方凡例録』にみる「焼畑」／『地方落穂集』と『地方凡例録』／近世後期の地方書

おわりに 176

## 第Ⅱ部 近代日本の焼畑・植生・学知

### 第五章 近代日本の林学と焼畑像

はじめに 185

一 植民地林学と焼畑 187

二 日本の近代林学と焼畑 191

本多静六の「科学的林業」受容／本多静六の焼畑像

三 近代日本の林政と焼畑 199

おわりに 204

### 第六章 近代林学と国土の植生管理

はじめに 209

一 植生帯をめぐる三つの学説 211

高島得三・田中壤の植物帯／ハイニンリッヒ・マイルの植生帯／本多静六の森林植物帯

二 植生の改変とその環境史的復原 222

人為的な植生改変の「発見」／潜在的な植生帯の復原

三 自然の回復と植生管理の思想 231

185

209

失われた自然とその回復／国土の植生管理に向けて  
おわりに 238

## 第七章 原野の火入れと学知のポリティクス

243

はじめに 243

一 明治・大正期の林政と原野 246

公有林野「整理」政策と原野／公有林野の面積推計と原野／公有林野「整理」と火入れ禁止

二 近代林学と「荒廃」原野 254

植生の環境史的理解／火入れ原野の植生調査／原野火入れ論争

三 木曾からの反論 263

長野県の火入れ禁止策／木曾の火入れ再開運動／地域の論理と林学の論理

おわりに 270

## 第八章 植民地朝鮮における焼畑と学知のポリティクス

275

はじめに 275

一 地図化された想像の環境史 280

「朝鮮林野分布図」が捉えた植生／「荒廃」の環境史

二 学知の構築と焼畑像の修正 291

地理学者・小田内通敏の焼畑集落調査／農学者・橋本傳左衛門と火田の「改良」

三 植民地社会における環境主義的言説 304

新聞にみる焼畑像と環境主義／火田の現場で自問した人々  
おわりに 312

## 終章

319

謝辞 326

参考文献 xv (358)

図表一覧 xiii (360)

索引 i (372)

# 序章

## 一 飼い慣らされた火

「火の歴史」というユニークな研究領野を開いたステイヴン・パインにとって、火は生態系の一部であり、その不可欠な要素である（パイン：2003a, p. 2014）。燃焼が成り立つために必要な三要素、燃料・酸素・熱のうち、大気中の酸素は植物が放出したものであり、地上に存在する可燃物のほとんどは植物に由来する物質である。ここに落雷がもたらす高熱さえ加われれば、燃焼が始まる。その意味で、火とは「根本的には生物の産物」（パイン：2014, p.20）だといえる。約四億年前のデボン紀に陸上が植物で満たされて以降、地上の生命は火とともに進化してきた。

「火とともに進化する」という表現は、生命にとって火で焼かれることは死そのものだ、という常識に反しているようにみえる。しかし、パインは植物の火への適応には二つの形態があるという（パイン：2003b, p.46）。その一つは、野火が起こっても生き延びることができるように、樹皮を厚くして燃えにくくしたり、再萌芽の能力を高めたりすることである。もう一つは、野火の跡地に好んで進出するワラビやイネ科のような植物、あるいは火災後に率先して繁殖を図る植物たちが、火を呼び起こすように——つまり燃えやすいように——自らの形質を進化させた可能性さえあるのではないか、ということである。パインは、後者の証明の難しさを示唆してはいる

が、種の維持や世代の更新のなかに火という要素が組み込まれている植物があることは確かだろう。「火は生態系に力を与え、循環させる」のである (バイン：2014, p.16)。

右のようないわば野生の火が「第一の火」であるとすれば、「第二の火」とは人によって「飼いや慣らされた火」(domesticated fire)である。火が植物生態系におよぼす力を理解した人類は、あたかも家畜や栽培植物のように火を手懐け、自らの管理下に置くことで、環境の人為的改変を進めてきた。北アメリカのプレーリーとオーストラリアのサバンナは、しばしばその好例として挙げられる。前者の場合、野生動物を追い立てるために、そして彼らを集める食餌となる草を生やすために、先住民が繰り返し火を放ち、高木に乏しい草原が形成された (Pyne：1982, 2017)。文化地理学を創始したカール・サウアーも、本来は森林が成立する気候下にまで草原が広がっていることに気づき、それが人為的に形成されたことを繰り返し指摘している (Sauer：1950, 1962)。人為的改変の結果としての草原は、もはや純粹に「自然」な環境ではない。サウアーの概念を用いていえば、自然景観に文化が作用して形成された「文化景観」に該当するものであり (久武：2000)、自然と人類という二元的な対峙の構図には収まらない。

オーストラリアも同様に、先住民アボリジニによる絶え間ない着火によって森林が開かれ、食糧となるカンガルーや昆虫に満ちた疎林や草原が形成された (Pyne：1998)。一九世紀のイギリスからの植民者も、「火、草原、カンガルー、そして居住者たちは、オーストラリアでの生存のために互いに依存し合っている」(バイン：2003b, p.118) ことに注目している。アボリジニたちが携える燃え木が植生をコントロールしていることを指摘するため、リース・ジョーンズは「火起し棒耕作」(fire-stick farming) という概念を提起した (Jones：1969)。現在もなお、植生や季節に注意して、計画的に火入れを行う慣行が残されている (小山：2000, 2002, 2010)。こうして作られた環境は、人の利用にとって都合の良い環境には違いないが、火に順応してそこに生息する動植物にとって



も、好都合な条件をもっている。その意味で、オーストラリアには、アボリジニと火の両者を不可欠の構成要素とする生態系が成り立ってきたというべきであり、ここでも言葉の純粋な意味での「自然」環境なるものは存在しないのである。

パインのいう「飼い慣らされた火」を、以下本書では簡単に「人為の火」と呼ぶことにしよう。「人為の火」が火を不可欠とする環境を作り出してきたという事実は、「人為の火」がもたらした草原や裸地に、人が意図する動植物を投入した場合に、いつそう明白となる。すなわち、「火による狩猟から自然に進化した、火による放牧」と、「火による採集の延長としての火による農業」(パイン：2014, pp.63-64)である。前者は、火入れ後に生じる若い草原に、野生動物ではなく人が選んだ家畜を放牧するものであり、後者は、火入れ後の裸地に順応した植物が発芽する前に、人が選んだ栽培植物の種を播き、最初の優占種となるように意図したものだといえる。パインの見方によれば、後者の火は絶えず畑を更新する役割を果たしているのであり、休閑地は火に「食べさせる」燃料を養うためにある。このような農業は「火—休閑地システム」(パイン：2003b, p.135)と呼ぶことができ、その典型例が焼畑である。

焼畑とは、一般的には、その土地の植物を焼いた跡地に播種して畑とし、その後休閑期間を設けて、植生がある程度回復した後に再び焼いて畑とするプロセスを繰り返す農法である。現在もなお焼畑は熱帯の重要な生業として存続しており、その役割が失われたわけではない(例えば、佐藤廉也：1999、池谷：2005、横山・落合：2008、木村・北西：2010)。そのために焼畑は熱帯に特有の農業であるかのように誤解されることがあるが、本書が示すように日本を含む温帯においても、また北欧のような冷帯においても営まれた歴史がある(パイン：2003a, pp.100-125, Sarmela：1987, Myllyntaus *et al.*：2002)。その意味で、焼畑とはある程度の森林植生があれば成立しうる普遍的な農法であったことを、まずは確認しておこう。

さて、ここまで紹介してきたパインの考え方を、焼畑に引きつけて考えてみたい。パインは、火を突発的で例外的な事故のようなものとせず、本来的に陸上の生態系には火が重要な要素として含まれていると捉え、火を排除した自然の理解に異を称える。この考えに立てば、農牧業とは、もともとの自然のありようの模倣であり、意図的に生態系の循環を引き起こし、優占すべき動植物に関して人が影響力を発揮する営みだといえる。こうした理解は、生態学的観点から焼畑や放牧を捉え、野生と栽培（家畜）の中間にある「半栽培」の状態に留意する立場に、相通じるものがある。例えば福井勝義は、焼畑の原初形態を、現存植生を除去した後の遷移を半栽培的に管理する「遷移畑」だと想定するとともに、放牧に関しても、草原に野火を起こして家畜の採食に適した植生を作りだし、動物の群れを導きながら遊動する点に特質を見いだしている（福井：1983, 1994, 2004）。福井は、焼畑と放牧が非科学的あるいは非近代的だと非難されてきたことに対して、火と遷移を基盤とする営みが、自然との共存を実現していることを積極的に評価している。

とはいえ焼畑については、森林破壊の元凶という「焼畑悪玉論」が、国際機関によって、あるいは教科書を通じて流布し、一般に広く支持されているのが現状である（O'Brien：2002, 佐藤廉也：2016, 大崎・杉浦：2018）。その一方で、一九六〇年代頃から農業生態学的な分析と肯定的な評価がみられるようになったのも事実である（<sup>カ</sup>方：2013, p3）。<sup>カ</sup>うした評価は、環境とその利用の持続可能性を重視する価値観や、半栽培をキーワードとする環境利用への関心ともかわりつつ、生態学的な問題意識をもつ研究者の間では、かなり受け入れられているといつてよい（例えば、原田・鞍田：2011）。そのなかで、単に生態系への適合性で焼畑を評価するのではなく、焼畑には効率性で説明できることが多いと指摘し、労働生産性の高さこそが焼畑が選ばれる理由だとする佐藤廉也の議論も重要である（佐藤廉也：2011）。自然とのかかわりの深さは、焼畑がそれだけ「原始的」で未発達だという誤解につながりやすいが、焼畑が今なお生業として存続しているのは、それを担ってきた人々が、もつとも合理

的な生業だと選択してきた結果である。より「近代的」な生業の方が、つねに優れているわけではない。

にもかかわらず、現代社会が「焼畑をさも遅れたもの、野蛮なものと考え、そうふるまってきた」（佐藤洋一郎：2011, p.22）背景には、別の理由があると考えるべきだろう。パインは、近代の間人と火の関係に影響した二つの重要な事柄として、近代的な科学の発展とヨーロッパの帝国主義的な拡張を挙げている（パイン：2014 pp.166-170）。前者を代表するのが林学であり、林学によって権威づけられた火の統制——あるいは「パイン・ファイア恐火症」——は、ヨーロッパの拡張主義を通じて世界中の植民地に広がった。こうした林学的な価値観においては、焼畑にともなう森林の焼却を、「火による採集」の延長として理解するのは難しい。焼畑の火は、ストックされた林産資源の「破壊」や「荒廃」をもたらす無益な燃焼として、捉えられることになる。そのため焼畑は、否定や抑圧、そしてそれに対する反発や妥協の焦点となりやすく、そこには国家や地域の林政と焼畑の当事者との対立、あるいは林学のような学知と在来の経験知との対立というポリテイクスが渦巻くことになる。

さらにパインの視座に立ち返れば、野生の火や焼畑の火に対する忌避的な反応は、むしろ火を完全に支配しようとする近代の産業社会のあり方にも、根ざしているのかもしれない。パインによれば、化石燃料を手にした近代の産業社会は、「第三の火」（パイン：2003b, p.286）の段階に達している。地上に現存するバイオマスとは別に、地下から燃料を得た人間は、火を完全に支配下に置き、意のままに用い、管理している。この産業社会においては、野火のような「第一の火」の野生のふるまいは、ただちに鎮火されねばならない。自然の火を模倣し、その作用に従うように見える焼畑のような「第二の火」もまた、あたかも自然への従属のように見えるがゆえに、「消火」されることになる。

『森と火の環境史』と題する本書は、右のような理解を念頭において、日本の焼畑の歴史を捉えなおす試みである。それは、農業史の一分野としての焼畑史を目指しているわけでもなく、かつての『照葉樹林文化論』のよ

うな文化論を狙っているわけでもない。それよりも、焼畑の火が飼い慣らされていた時代から、それが社会的にほぼ否定される時代までの変化を視野に入れて、火を前提とした植物利用や植生の推移、ならびにそのポリテクスを環境史的にたどることに主眼がある。こうした問題意識に沿って、次節では日本の焼畑の研究史を概観し、そして三節において本書の課題を具体的に絞ることにしたい。

## 二 日本の焼畑研究史

二〇世紀半ばまで日本各地で営まれていた焼畑に関しては、さまざまな分野からの研究が蓄積されている。著者もかかわった「焼畑関係文献目録」(江頭ほか：2011)は一〇〇〇点余の日本語文献を列挙しており、その多くが日本国内の焼畑にかかわる。また近年の横山智らのレビューは、生態的ないし農法的な観点を中心に研究成果を概観している(Yokoyama *et al.*: 2014)。さらに、国外の焼畑に関して日本語で書かれた成果も少なからずあり、国内を対象とした研究群と相互に影響してきたことは間違いない。しかし本書は日本(とその旧植民地)の焼畑を研究対象としているため、以下では基本的には日本の焼畑を対象とした研究に絞って概観したい。以下、「日本の焼畑研究」と記す場合は、そうした日本の焼畑を対象とした研究群を指すものとする。

ただし、日本の「歴史学における焼畑の研究史は、極めて貧弱」であり(原田：2007, p.35)、環境史的な焼畑研究はかなり遅れて登場したといわざるをえない。前近代日本の農業史に関する著書のなかで、焼畑のために一章を割いたシャルロツテ・フォン・ヴェアシアは、日本の歴史研究から焼畑作物は「欠落」していたも同然だと述べている(Von Verschuer: 2016, p.133)。対照的に地理学者や民俗学者は、早くから自身と同じ時代か直近の時期の焼畑に関してフィールドワークを進め、文化の系譜や伝播を探る研究を積み重ねてきた。こうした研究群をここでは「同時代的」な焼畑研究と呼ぶことにしたい。同時代的な焼畑研究は、歴史学的な志向を備えてい

## 謝 辞

本書が成るまでには、多くの方々のご導きがあった。その全ての方のお名前を記すことはできないが、以下では、とくに学恩を感じるの方々のみ挙げさせていただければと思う。

歴史地理学分野では、著者が研究を始めるずっと以前から、焼畑の歴史地理に関心を注がれてきた溝口常俊先生と伊藤寿和先生にお礼申し上げたい。両先生のご研究は、著者にとって良い導きとなったばかりでなく、著者の研究が形を成すたびに、両先生は様々なご助言をくださった。

また、平成一八年度（二〇〇六）に東北芸術工科大学東北文化研究センターで、さらに平成一九年度（二〇〇七）から二一年度（二〇〇九）にかけて総合地球環境学研究所で行われた焼畑や「火耕」に関する共同研究では、学際的な視野から刺激的な研究に接することができ、裨益される所が大きかった。本書のうち第一章・第二章・第五章・第八章は、この共同研究での取り組みと関わりが深い。共同研究を主導された民俗学の六車由実先生、日本史の原田信男先生、哲学の鞍田崇先生には、特にお礼申し上げたい。

平成二三年度（二〇一一）から二五年度（二〇一三）にかけては、地理的近代性に関わる共同研究に参加させていただき、様々な観点からモダニティを捉える可能性について、視野を広げる機会を得た。本書の第六章は、もともと、この共同研究を主宰された島津俊之先生のご研究に導かれたものである。

平成二七年度（二〇一五）から三年間、さらに継続して平成三〇年度（二〇一八）以降、帝国日

本の林業に関する地理学・林学・環境史にまたがる共同研究に参加させていただき、やはり大きな刺激を受けている。本書の序章と第七章は、この研究会での取り組みと深く関わっている。主宰されている中島弘二先生に、とくにお礼申し上げる次第である。

なお、国際歴史地理学会（ICHG）、東アジア環境史学会（AEAHE）、人文地理学会、歴史地理学会では、本書各章の元になる報告を行った。それ以外にも、地図史や村落研究、環境史や科学史、民族学にかかわる様々な研究会で、発表の機会を与えていただいた。これらの諸学会や研究会、ならびにその場で批判や助言をくださった方々にも、深く感謝申し上げる。

また、本書が成るまでの研究の過程では、国税に由来する科学研究費補助金の助成を受けている。直接関わるもののみ左に示して、感謝申し上げます。

奨励研究（A）「近世日本における焼畑と山村像の再検討」（研究代表者・米家泰作、二〇〇〇～二〇〇一年度、課題番号一二七八〇〇六三）

若手研究（B）「近世日本における焼畑の地域的差異と変化に関する歴史地理学的研究」（研究代表者・米家泰作、二〇〇三～二〇〇四年度、課題番号一五七二〇二〇〇）

若手研究（B）「日本統治下の朝鮮半島における森林環境の把握と表象に関する歴史地理学的研究」（研究代表者・米家泰作、二〇〇五～二〇〇七年度、課題番号一七七二〇二二四）

基盤研究（B）「言語と物質性からみた地理的モダニティの構築に関する地理学史的研究」（研究代表者・島津俊之、二〇一〇～二〇一三年度、課題番号二三三二〇一八四）

挑戦的萌芽研究「旧日本帝国における森林の利用と保全に関する研究——地理学、林学、環境

史の視点から——」(研究代表者・中島弘二、二〇一五〜一七年度、課題番号一五K二二九五〇)

基盤研究(B)「帝国林業をめぐる知と実践の展開に関する研究」(研究代表者・中島弘二、二〇一八年度、課題番号一八H〇〇六四二)

右のほかに、本書の刊行に際しては、二〇一九年度科学研究費補助金・研究成果公開促進費(学術図書、課題番号J P一九HP五一四)の使用を許された。焼畑という現代の日本では珍しい営みを扱った本書が、図書の市場でどのような評価を受けるか、著者としても決して楽観的であつたわけではない。助成によって円滑に出版に至つたことには、ただ感謝するばかりである。

また、表紙カバーには、享保二年(二七一七)の土屋又三郎『農業図絵』より、「遠山秋雑畑焼」を用いた。挿絵の利用にご配慮くださった農山漁村文化協会に、お礼申し上げます。悠然と焼畑の火を見上げる百姓を描いたこの絵は、『日本農書全集』(山田ほか：1983a, p.115)で見ることができる。

最後に、出版事情が厳しい中、本書の刊行にご理解をいただいた思文閣出版と、担当してくださつた井上理恵子さん、そして井上さんを引き継いだ三浦泰保さんにお礼申し上げます。本書の文章が少しでも読みやすくなっているとすれば、それは三浦さんが著者の原稿から力みとバグを丁寧に取りのぞいてくださったおかげである。

二〇一九年一〇月一日

米家 泰作

## 参考文献

※編著者名(人名)が韓国(朝鮮)語・中国語の場合は、便宜上、参照箇所を示したルビに従って和文・韓文・中文の項に配列している。

### 和文・韓文・中文

- 赤石 直美 (2004) 「山村における焼畑の衰退と林野利用の変化——兵庫県養父郡大屋町を例として——」 『歴史地理学』 46(3) 32~43頁
- 赤羽 武 編 (1984) 『明治農書全集13 林業・林産』 農山漁村文化協会
- 赤羽 武・赤司 政雄・砂坂 元幸・佐藤 常雄・加藤 衛弘・林 敬 編 (1987) 『吉野林業史料集成1 村明細帳・町村誌』 筑波大学農林学系
- (1988) 『吉野林業史料集成2 検地帳・地価帳』 筑波大学農林学系
- 秋澤 繁 (1977) 「天正19年豊臣政権による御前帳徴収について」 「中世の窓」 同人編 『論集中世の窓』 吉川弘文館 205~241頁
- (1993) 「太閤検地」 朝尾直弘ほか編 『岩波講座日本通史 第11巻 近世1』 岩波書店 107~138頁
- (1995) 「土佐の山村——大忍庄槇山を中心として——」 網野善彦・石井進編 『中世の風景を読む6 内海を躍動する海の民』 新人物往来社 59~114頁
- 秋山 伸隆 (1998) 『戦国大名毛利氏の研究』 吉川弘文館
- 浅川 清栄 (1978) 「高島藩の検地仕法」 『信濃』 30 885~897頁・1035~1056頁
- (1981) 「統高島藩の検地仕法」 『信濃』 33 1028~1039頁
- 温海町史編さん委員会 編 (1978) 『温海町史上』 温海町(山形県)
- 網野 善彦 (1991) 『日本中世土地制度史の研究』 塙書房
- 荒川 五郎 (1906) 『最近朝鮮事情』 清水書店
- 有木 純善 (1974) 『林業地帯の形成過程——木頭林業の展開構造——』 日本林業技術協会
- 有蘭 正一郎 (2007) 『農耕技術の歴史地理』 古今書院
- 李 光奎・崔 吉城 (2003) 「江原道三陟郡道溪邑新里の火田民・現地踏査記」 (李惠燕訳) 『東北学』 9 296~299頁
- 李 鎮昊・全 炳徳 (2012) 「大韓帝国時代の森林法がもたらした朝鮮の初期測量とその教育等に関する研究」 『林業経済』 65(5) 17~29頁
- 飯田 辰彦 (2002) 『山人の賦、今も——宮崎県椎葉村の暮らしと民俗——』 河出書房新社
- 葉 爾建 (2018) 「帝国日本熱帯植物知識の形成——以金平亮三與 Elmer Drew Merrill



- 之學術網絡為中心——」(中文)『地理研究』(台灣師範大學地理學系)68 115~132頁
- 池上 裕子 (1999)『戦国時代社会構造の研究』校倉書房
- (2002)『日本の歴史15 織豊政権と江戸幕府』講談社
- 池谷 和信 編 (2005)『熱帯アジアの森の民——資源利用の環境人類学——』人文書院
- 伊豆田 忠悦 (1979)『羽前地方史の研究』郁文堂書店
- 泉 英二 (1992)「吉野林業の展開過程」『愛媛大学農学部紀要』36(2) 305~463頁
- 泉 桂子 (2004)『近代水源林の誕生とその軌跡——森林と都市の環境史——』東京大学出版会
- 市川 健夫 (1968)『平家の谷——信越の秘境秋山郷——』令文社
- 市川 光雄 (2010)「植生からみる生態史——イトウリの森——」『森棲みの生態史』(木村・北西2010を参照) 101~118頁
- 井戸 佳子・藤本 清二郎 (1984)「紀州における太閤検地と石高制の成立——実施過程と記載様式の分析——」『和歌山地方史研究』7 13~29頁
- 伊東 淳 (1914)「木曾における林野火入試験」『大日本山林会報』385 39頁
- (1918)『原野火入の研究』私家版
- 伊藤 兆司 (1928・1931)「小倉領中津領及び日田旧幕府領領域地帯に於ける隸農制度」『農業経済研究』4・7 400~457頁・645~698頁
- 伊藤 寿和 (1995)「古代・中世の「野島」に関する歴史地理学的研究」『日本女子大学大学院文学研究科紀要』創刊号 1~20頁
- (1996a)「平安・鎌倉時代の「山畑(焼畑)」に関する歴史地理学的研究」『日本女子大学紀要文学部』45 79~95頁
- (1996b)「古代・中世の畠作と畠制度に関する基礎的研究——条里制との関連において——」『条里制研究』12 1~15頁
- (1999)「中世後期における東大寺領大和国河上荘の焼畑経営と茶の栽培」『日本女子大学紀要文学部』48 29~47頁
- (2000)「紀伊国の「山畑(焼畑)」に関する歴史地理学的研究——古代から近世前期を中心として——」『史境』41 1~24頁
- (2001)「古代・中世の「山島」に関する歴史地理学的研究」『史艸』42 142~167頁
- (2003)「古代・中世の「野島」と雑穀栽培」木村茂光編『雑穀——畑作農耕論の地平——』青木書店 81~98頁
- (2010a)「近世前期における焼畑耕作の実態について——静岡県の焼畑山村を主な事例として——」『史艸』51 95~114頁
- (2010b)「近世における会津地域の「焼畑(鹿野畑)」に関する基礎的研究」『日本女子大学紀要文学部』59 92~63頁
- (2012)「近世における焼畑山村の家族の実態と焼畑農法の変容について——大井川上流の井川地域を主な事例として——」『日本女子大学紀要文学部』61 69~86

- 頁
- (2013)「近世における焼畑山村の人口移動とその実態——大井川最上流の井川地域を事例として——」『日本女子大学紀要文学部』62 97～106頁
- (2014)「近世における焼畑耕作の実態についての再検討——大井川の上流地域を事例として——」『日本女子大学紀要文学部』63 71～83頁
- (2015)「近世中・後期における切畑（焼畑）耕作の実態に関する再検討——尾張藩領・木曾谷の王滝村を事例として——」『史艸』56 60～79頁
- 井上 真 (2004)『コモンズの思想を求めて——カリマンタンの森で考える——』岩波書店
- 猪熊 泰三 (1967)「日本森林植物帯の明治期における調査研究について」『レファレンス』196 46～59頁
- 林 慶澤 (2006)「植民地朝鮮における日本人の村落調査と村落社会——朝鮮総督府嘱託 善生永助を中心に——」『韓国朝鮮の文化と社会』5 167～202頁
- 林 根周 (1932)「朝鮮林政より見たる火田問題」朝鮮総督府水原高等農林学校創立25周年記念祝賀会編『創立25周年記念論文集』朝鮮総督府水原高等農林学校創立25周年記念祝賀会 415～438頁
- 植田 国境子 (1929)『国境二百里』国境二百里発行所
- 上野 敏彦 (2011)『千年を耕す 椎葉焼き畑村紀行』平凡社
- 上野 福男 (1979)『高冷山村の土地利用の秩序』二宮書店
- 上山 春平・佐々木 高明・中尾 佐助 (1976)『統照葉樹林文化——東アジア文化の源流——』中央公論社
- 宇山 孝人 (1992)「表高の成立過程に関する一考察——阿波蜂須賀氏の天正・慶長検地帳を素材として」『鳴門史学』6 17～36頁
- 江頭 宏昌 (2007)「山形県の在来カブ——焼畑がカブの生育と品質に及ぼす効果——」『季刊東北学』11 106～116頁
- (2010)「現代における焼畑の意義を考える」鞍田崇編『ユーラシア農耕史 5』臨川書店 198～215頁
- (2011)「カブと焼畑——山形県を中心に——」『焼畑の環境学』（原田・鞍田2011を参照）252～284頁
- 江頭 宏昌・米家 泰作・原田 信男 (2011)「焼畑関係文献目録」『焼畑の環境学』（原田・鞍田2011を参照）付録 CD-ROM
- 江口 哲夫 (2000)『郷土山元村誌 上巻』私家版
- 愛媛県史編さん委員会 編 (1984)『愛媛県史 資料編 近世上』愛媛県
- (1986)『愛媛県史 近世上』愛媛県
- 遠藤 治一郎 (1955)『公有林野』日本治山治水協会
- 遠藤 泰造 (2002～2003)「森林の水源涵養機能に関する論争史」『水利科学』268～271 54～88頁・78～116頁・51～91頁・51～90頁

- 大石 慎三郎 校訂 (1969) 『地方凡例録』 近藤出版社
- 大石 学 (1983) 「伊勢国文祿検地の基礎的研究」 『徳川林政史研究所研究紀要』 昭和57年度 258～344頁
- 大石田町史編集委員会 編 (1978) 『大石田町史 史料編』 大石田町 (山形県)
- 大分県総務部総務課 編 (1983) 『大分県史 近世篇 1』 大分県
- 大賀 郁夫 (1996) 「近世焼畑検地考」 『宮崎県史研究』 10 19～41頁
- (2005) 『近世山村社会構造の研究』 校倉書房
- 大蔵省 編 (1923) 『日本財政経済史料 10』 財政経済学会
- 大阪府史編集専門委員会 編 (1985) 『大阪府史 5 近世編 1』 大阪府
- 大崎 晃 (2006) 「尾張藩木曾林政享保改革後の領民営農と切畑」 『徳川林政史研究所研究紀要』 40 15～37頁
- 大崎 正治・杉浦 孝昌 (2018) 「焼畑の思想を求めて——熱帯土壌貧困説批判——」 『國學院経済学』 66(1) 95～131頁
- 大迫 元雄 (1937) 『本邦原野に関する研究』 興林会
- 大住 克博 (2018) 「日本列島の森林の歴史的变化——人との関係において——」 中静透・菊沢喜八郎編 『森林の変化と人類』 共立出版 68～123頁
- 大住 克博・池田 重人・杉田 久志 編 (2005) 『森の生態史——北上山地の景観とその成り立ち——』 古今書院
- 大田 伊久雄 (2013) 「森林の資源化と戦後林政へのアメリカの影響」 野田公夫編 『農林資源開発の世紀——「資源化」と総力戦体制の比較史——』 京都大学学術出版会 175～225頁
- 大塔村史編集委員会 編 (1979) 『奈良県大塔村史』 大塔村
- 大脇 保彦 (1960) 「土佐における近世初期村落について——長宗我部地検帳による若干の考察——」 『人文地理』 12 223～245頁
- 岡 恵介 (2008) 『視えざる森の暮らし——北上山地・村の民俗生態史——』 大河書房
- (2016) 『山棲みの生き方——木の実食・焼畑・短角牛・ストック型社会——』 大河書房
- 岡田 俊裕 (1995) 「小田内通敏の地理学研究——在野的・非主流派地理学の形成——」 『地理科学』 50 233～249頁
- 岡本 貴久子 (2016) 『記念植樹と日本近代——林学者本多静六の思想と事績——』 思文閣出版
- 岡山県 編 (1984) 『岡山県史 6 近世 1』 岡山県
- 玉 漢錫 (1985) 「韓國의 火田農業에 관한研究」 (韓文) 『地理学研究』 (韓国地理教育学会) 10 153～178頁
- 奥多摩町誌編纂委員会 編 (1985) 『奥多摩町誌 歴史編』 奥多摩町 (東京都)
- 小椋 純一 (1992) 『絵図から読み解く人と景観の歴史』 雄山閣出版
- (1996) 『植生からよむ日本人のくらし——明治期を中心に——』 雄山閣出版

- (2012) 『森と草原の歴史——日本の植生景観はどのように移り変わってきたのか——』古今書院
- (2019) 「房総丘陵と筑波山地における明治前期から後期にかけての草原の減少」『生物科学』70 217～224頁
- 小田内 通敏 (1922) 「朝鮮部落調査の過程」『東洋』25(4) 2～14頁
- (1923) 『朝鮮部落調査予察報告 第一冊』朝鮮総督府
- (1924a) 『朝鮮部落調査報告 第一冊 火田民来住支那人』朝鮮総督府
- (1924b) 「朝鮮火田民の社会的考察」『東洋』27(11) 5～21頁
- (1926) 「朝鮮の火田民」『人文地理』(慶応義塾大学図書館)1(1) 25～35頁
- 小野 重雄 (1959) 「肥後国天正・慶長検地帳の分析——菊池郡伊倉村および岩本村を中心として——」神奈川大学創立三十周年記念論文集編集委員編『社会科学の方法と諸問題——神奈川大学創立三十周年記念論文集——』神奈川大学 499～524頁
- 小野 武夫 (1940) 「日本原始農業の考察」『経済志林』12(1) 1～59頁
- (1942a) 『日本農業起源論』日本評論社
- 小野 武夫 編 (1932a) 『近世地方経済史料 2』近世地方経済史料刊行会
- (1932b) 『近世地方経済史料 3』近世地方経済史料刊行会
- (1932c) 『近世地方経済史料 4』近世地方経済史料刊行会
- (1932d) 『近世地方経済史料 5』近世地方経済史料刊行会
- (1932e) 『近世地方経済史料 6』近世地方経済史料刊行会
- (1932f) 『近世地方経済史料 7』近世地方経済史料刊行会
- (1932g) 『近世地方経済史料 8』近世地方経済史料刊行会
- (1941) 『日本農民史料聚粹 11』巖松堂書店
- (1942b) 『日本農民史料聚粹 6』巖松堂書店
- 開田村 編 (1980) 『開田村誌 下巻』開田村 (長野県)
- 香川県 編 (1939) 『香川叢書 第二』香川県
- (1989) 『香川県史 3 通史編 近世 1』香川県
- 葛西 寛一・神尾 一春・三井 榮長・橋本 傳左衛門 (1928) 『火田調査報告書』朝鮮総督府
- 柏倉 亮吉 (1959) 「徳川時代の石盛の一問題」読史会編『国史論集 2』読史会 1017～1036頁
- 梶村 秀樹 (1979) 「甲山火田民事件 (1929年) について」旗田巍先生古稀記念会編『朝鮮歴史論集 下巻』龍溪書舎 381～409頁
- かつらぎ町史編集委員会 編 (1988) 『かつらぎ町史 近世史料編』かつらぎ町 (和歌山県)
- 火田整理史編纂委員会 編 (1980) 『火田整理史』(韓文)山林庁
- 加藤 衛弘 (1982) 「西川林業発生史に関する一考察——武州秩父郡下名栗村の事例をを通して——」『徳川林政史研究所研究紀要』昭和56年度 165～196頁

- (1993a) 「武州山之根筋における寛文検地の基礎的研究」 『学習院大学史料館紀要』 7 1～48頁
- (1993b) 「寛文検地と切替畑——武州西川地方における「山」利用と林野所持——」 『徳川林政史研究所研究紀要』 27 1932～22頁
- (2007) 『近世山村史の研究——江戸地廻り山村の成立と展開——』 吉川弘文館
- 鹿児島県維新史料編さん所 編 (1982) 『鹿児島県史料 旧記雑録後編2』 鹿児島県
- 金山 耕三 (1987) 「近世山村の一年」 阿部西喜夫先生喜寿記念会編 『西村山の歴史と文化』 阿部西喜夫先生喜寿記念会 319～333頁
- 上山 満之進 (1931) 「山林局時代の思出」 大日本山林会編 『明治林業逸史 続編』 大日本山林会 347～361頁
- 川上村史編纂委員会 編 (1987) 『川上村史 史料編上』 川上村教育委員会 (奈良県)
- (1989) 『川上村史 通史編』 川上村教育委員会 (奈良県)
- 川野 和昭 (1995) 「竹と焼畑をめぐる問題」 『黎明館調査研究報告』 9 33～48頁
- (2001) 「もう一つの焼畑——南九州と東南アジアの竹の焼畑——」 『季刊東北学』 4 290～301頁
- (2007) 「竹の焼畑——森の再生と持続可能な農耕の見通し——」 『季刊東北学』 11 144～156頁
- (2011) 「南九州とラオス北部の竹の焼畑——森の再生と持続可能な農耕——」 『焼畑の環境学』 (原田・鞍田2011を参照) 385～403頁
- 川野 実 (1934) 「東上面に於ける火田民収容事業と堆肥」 『北鮮開拓』 11 32～33頁
- 川辺町史編さん委員会 編 (1986) 『川辺町史3 史料編上』 川辺町 (和歌山県)
- (1988) 『川辺町史1 通史編上』 川辺町 (和歌山県)
- 木越 隆三 (2000) 『織豊期検地と石高の研究』 桂書房
- 岸田 定雄 (1995) 『大和のうるしこし 吉野紙』 豊住書店
- 岸野 久 (1989) 『西欧人の日本発見——ザビエル来日前日本情報の研究——』 吉川弘文館
- 木曾福島町教育委員会 編 (1982) 『木曾福島町史2 現代編I』 木曾福島町 (長野県)
- (1983) 『木曾福島町史3 現代編II』 木曾福島町 (長野県)
- 喜多 源内 (1922) 『西祖谷山村史』 西祖谷山村 (徳島県)
- 北内 陽子 (1993) 「山北の現在の焼畑——雷集落を中心に——」 『山北町民俗論集』 3 18～34頁
- 北原 真人 (1958) 「高遠領検地の諸問題 (1)」 『信濃』 10 389～397頁
- 岐阜県 編 (1973) 『岐阜県史 通史編 近世上』 岐阜県
- (1980) 『岐阜県史 史料編 近世1』 岐阜県
- 金 鎮順 (2003) 「韓国の火田民俗——江原道火田民たちの話——」 (李惠燕訳) 『東北学』 9 275～284頁
- 木村 茂光 (1992) 『日本古代・中世畠作史の研究』 校倉書房

- 木村 修三 (1911) 『林野に関する調査』 帝国農会  
 —— (1912) 「林野火入れの利害に就て」 『帝国農会報』 2(2) 31～33頁  
 —— (1927) 「旧南部領に於ける庄園類似の制度」 『農業経済研究』 3 263～338頁  
 木村 靖二 (1936) 「日本原始農業の二様式——「イネの由来・分布」と「焼畑及切替畑調査」——」 『社会経済史学』 6 501～510頁  
 木村 大治・北西 功一 編 (2010) 『森棲みの生態誌——アフリカ熱帯林の人・自然・歴史 I——』 京都大学学術出版会  
 木村 博一 (1973) 『下北山村史』 下北山村 (奈良県)  
 木村 礎 校訂 (1995) 『旧高田領取調帳 近畿編』 東京堂出版  
 吉良 竜夫 (1971) 『生態学からみた自然』 河出書房新社  
 紀和町史編さん委員会 編 (1991) 『紀和町史』 紀和町教育委員会 (三重県)  
 近世歴史資料研究会 編 (2012a) 『近世歴史資料集成 VII 期 3 地方凡例録 (完全限定版)』 科学書院  
 —— (2012b) 『近世歴史資料集成 VII 期 3 地方凡例録 解説・解説・索引篇 (完全限定版)』 科学書院  
 権 寧旭 (1965) 「朝鮮における日本帝国主義の植民地的山林政策」 『歴史学研究』 297 1～17頁  
 國安 寛 (2003) 「北東北の雑穀と焼畑」 『秋大史学』 49 39～70頁  
 熊野市史編纂委員会 編 (1983) 『熊野市史 上巻』 熊野市  
 久米 金彌 (1931) 「森林法の改正」 大日本山林会編 『明治林業逸史』 大日本山林会 66～73頁  
 倉橋町 編 (2001) 『倉橋町史 通史編』 倉橋町 (広島県)  
 黒田 日出男 (1984) 『日本中世開発史の研究』 校倉書房  
 黒滝村史編纂委員会 編 (1977) 『黒滝村史』 黒滝村 (奈良県)  
 桑波田 興 (1980) 「天正19年御前帳関係史料の一考察」 『西南地域史研究』 3 1～8頁  
 K Z S (1932) 「火田民「金成七」と語る」 『朝鮮山林会報』 84 27～32頁  
 高 秉雲 (1995) 「日本の朝鮮森林収奪史」 『東アジア研究』 9 17～38頁  
 —— (1998) 「日本の朝鮮火田民政策」 『東アジア研究』 21 53～68頁  
 —— (1999) 「日本の朝鮮火田民政策」 高秉雲編 『朝鮮史の諸相』 雄山閣出版 1～30頁  
 —— (2001) 『朝鮮火田 (焼畑) 民の歴史』 雄山閣出版  
 —— (2003) 「朝鮮の火田民」 『東北学』 9 285～295頁  
 小池 洋一 (1953) 「朝鮮火田民の発生」 『人文地理』 5 103～114頁  
 幸田 清喜 (1931) 「白峰の作り」 多田文男・石田龍次郎編 『現代地理講座 2 山地の地理』 河出書房 270～289頁  
 御勢 久右衛門 編 (1998) 『和州吉野郡群山記——その踏査路と生物相——』 東海大学

出版会

- 児玉 幸多・大石 慎三郎 編 (1966) 『近世農政史料集1 江戸幕府法令』 吉川弘文館
- 小林 茂・宗 建郎 (2009) 「環境史からみた日本の森林——森林言説を検証する——」  
池谷和信編 『地球環境史からの問い——ヒトと自然の共生とは何か——』 岩波書店  
154~173頁
- 小林 富士雄 (2007) 「林学者・高島得三と画家・高島北海」 『山林』 1482 26~35頁
- 米家 泰作 (2001) 「近世の焼畑と検地について——検地条目と地方書を中心に——」  
『愛知県立大学文学部論集』 49 (日本文化学科編3) 23~54頁
- (2002) 『中・近世山村の景観と構造』 校倉書房
- (2003) 「太閤検地における山畑と焼畑について」 『愛知県立大学文学部論集』 51  
(日本文化学科編5) 17~61頁
- (2005a) 「近世出羽国における焼畑の検地・経営・農法——村山郡のカノを中心に——」  
『歴史地理学』 47(2) 1~23頁
- (2005b) 「植民地における森林資源の地図化——朝鮮林野分布図——」 長谷川孝  
治編 『地図の思想』 朝倉書店 82~83頁
- (2005c) 「「山村」概念の歴史性——その視点と表象をめぐって——」 『民衆史研  
究』 69 3~20頁
- (2007a) 「紀伊山地の焼畑——その歴史地理的素描——」 平成14年~平成18年度  
私立大学学術研究高度化推進事業「オープン・リサーチ・センター整備事業」研究  
成果報告書『東アジアのなかの日本文化に関する総合的な研究Ⅰ プロジェクト1  
東アジアの民俗文化にかかわる調査・研究とデータベース化』 東北芸術工科大学東  
北文化研究センター 215~228頁
- (2007b) 「植民地朝鮮における焼畑の調査と表象」 『季刊東北学』 11 72~86頁
- (2011a) 「近代林学と焼畑——焼畑像の否定的構築をめぐって——」 『焼畑の環境  
学』 (原田・鞍田2011を参照) 168~190頁
- (2011b) 「高島藩の「下山畑」と焼畑について」 京都大学文学部地理学教室編  
『2011年度実習旅行報告書 諏訪市』 京都大学文学部地理学教室 123~130頁
- (2012) 「「近代」概念の空間的含意をめぐって——モダン・ヒストリカル・ジョグ  
ラフィの視座と展望——」 『歴史地理学』 54(1) 68~83頁
- (2013) 「山地荒廃」 人文地理学会編 『人文地理学事典』 丸善出版 614~615頁
- (2014a) 「近代林学と国土の植生管理——本多静六の「日本森林植物帯論」をめぐ  
って——」 『空間・社会・地理思想』 17 41~56頁
- (2014b) 「焼畑による山地植生の利用と開発——17~18世紀の紀伊山地を例とし  
て——」 宮本真二・野中健一編 『自然と人間の環境史』 海青社 213~236頁
- (2016a) 「草原の「資源化」政策と地域——近代林学と原野の火入れ——」 『歴史  
地理学』 58(1) 19~38頁
- (2016b) 「近世倉橋島の切畠——瀬戸内島嶼の焼畑的畑作——」 京都大学文学部



- 地理学教室編『2016年度実習旅行報告書 呉市』京都大学文学部地理学教室 129～136頁
- (2017a) 「網野善彦の「山民」概念」『歴史評論』805 42～55頁
- (2017b) 「明治大正期の地理的知——朝鮮半島の地誌と旅行記をめぐって——」金森修編『明治・大正期の科学思想史』勁草書房 169～220頁
- (2018a) 「昭和10年の朝鮮八景選定——コロニアル・ツーリズムの景観——」金田章裕編『景観史と歴史地理学』吉川弘文館 266～297頁
- (2018b) 「鳥津領太閤検地における「山畑」と焼畑」京都大学文学部地理学教室編『2018年度実習旅行報告書 鹿児島市』京都大学文学部地理学教室 121～128頁
- 米家泰作・竹本太郎 (2018) 「帝国日本の近代林学と森林植物帯——19世紀末台湾の調査登山と植生「荒廃」——」『アリーナ』21 138～152頁
- 小山 修三 (2000) 「森に火をつけよ——オーストラリア・アボリジニの炎のコントロール——」『季刊民族学』24(3) 62～87頁
- (2002) 『森と生きる——対立と共存のかたち——』山川出版社
- (2010) 「利器としての火——狩猟採集から焼畑農耕まで——」鞍田崇編『ユーラシア農耕史 5』臨川書店 29～56頁
- 埼玉県 編 (1988) 『新編埼玉県史 通史編 3 近世 1』埼玉県
- 齋藤 音作 (1911) 「朝鮮経営と山林問題」『大日本山林会報』347 60～76頁
- (1933) 「韓国政府時代の林籍調査事業」朝鮮山林会編『朝鮮林業逸誌』朝鮮山林会 39～81頁
- 寒河江市史編纂委員会 編 (1984) 『寒河江市史編纂叢書 30』寒河江市教育委員会
- (1985) 『寒河江市史編纂叢書 34』寒河江市教育委員会
- (1991) 『寒河江市史編纂叢書 43』寒河江市教育委員会
- 阪上 信次 (2002) 「ターラント高等山林学校と本多静六」本多静六博士顕彰事業実行委員会編『日本林学界の巨星 本多静六の軌跡——本多静六博士没50年記念誌——』本多静六博士顕彰事業実行委員会 12～15頁
- 坂野 徹 (2005) 『帝国日本と人類学者——1884—1952年——』勁草書房
- 坂野 徹・塚原 東吾 編 (2018) 『帝国日本の科学思想史』勁草書房
- 佐々木 高明 (1971) 『稲作以前』日本放送出版協会
- (1972) 『日本の焼畑——その地域的比較研究——』古今書院
- (1993) 『日本文化の基層を探る——ナラ林文化と照葉樹林文化——』日本放送出版協会
- (1997) 『日本文化の多重構造——アジア的視野から日本文化を再考する——』小学館
- 佐々木 長生 (2005) 「『会津農書』にみる焼畑農耕」『季刊東北学』2 134～145頁
- (2007) 「『会津農書』にみる焼畑と火耕」『季刊東北学』11 117～126頁
- (2011) 「会津農書からみる火耕」『焼畑の環境学』(原田・鞍田2011を参照) 119



～143頁

- 佐々木 彦一郎 (1935) 「山村の経済地理——埼玉県秩父郡浦山村の調査——」 『地理学評論』 11 504～524頁・631～657頁
- 佐藤 敬二 (1928) 「九州地方に於ける木場作」 『大日本山林会報』 542 40～49頁
- 佐藤 常雄 (1985) 「地方竹馬集」 国史大辞典編集委員会編『国史大辞典 6』 吉川弘文館 677頁
- 佐藤 満洋 (1970) 「太閤検地における村位別石盛り制の研究 (1)」 『大分県地方史』 58 12～39頁
- 佐藤 洋一郎 (2011) 「総説」 『焼畑の環境学』 (原田・鞍田2011を参照) 3～24頁
- 佐藤 廉也 (1999) 「熱帯地域における焼畑研究の展開——生態的側面と歴史的文脈の接合を求めて——」 『人文地理』 51 375～395頁
- (2011) 「アフリカから焼畑を再考する」 『焼畑の環境学』 (原田・鞍田2011を参照) 427～455頁
- (2016) 「高校地理教科書における焼畑記述——誤解の拡散とその背景——」 『待兼山論叢』 50 (日本学篇) 1～20頁
- (2018) 「焼畑の核心を突いた記念碑的研究」 『焼畑のむら』 (福井2018を参照) 411～419頁
- 沢村 東平 (1949a) 「焼畑農業経営方式の研究 (その1) ——畑作経営方式論への序説——」 『開拓研究』 2(1) 35～52頁
- (1949b) 「焼畑農業の地力維持方式——焼畑農業経営方式の研究 (その2) ——」 『開拓研究』 2(2) 21～32頁
- (1949b) 「焼畑農業の開墾方式——焼畑農業経営方式の研究 (その3) ——」 『開拓研究』 2(2) 33～40頁
- (1950a) 「焼畑農業の技術的停滞——焼畑農業経営方式の研究 (その4) ——」 『開拓研究』 2(3) 41～51頁
- (1950b) 「焼畑農業の技術水準——焼畑農業経営方式の研究 (その5) ——」 『開拓研究』 2(3) 53～66頁
- (1950c) 「焼畑農業経営方式の研究 (第6報) ——焼畑における作物の選択——」 『開拓研究』 2(4) 43～57頁
- (1951) 「焼畑農業経営方式の研究 第7報 (完) ——焼畑における作付方式の構成——」 『農業技術研究所報告 H 経営土地利用』 2 27～43頁
- 山林局 編 (1913) 『火入ニ関スル事例』 山林局
- 志賀 泰山 (1894) 「本邦ノ森林及林学」 『大日本山林会報』 137 1～32頁
- 四方 箒 (2013) 『焼畑の潜在力——アフリカ熱帯雨林の農業生態誌——』 昭和堂
- 静岡県 編 (1966) 『静岡県史料 3 駿州古文書 2』 角川書店
- (1993) 『静岡県史 資料編10 近世 2』 静岡県
- (1996a) 『静岡県史 通史編 3 近世 1』 静岡県

- (1996b) 『静岡県史 資料編 8 中世 4』 静岡県  
静岡市 編 (1975) 『静岡市史 近世史料 2』 静岡市  
— (1979) 『静岡市史 近世』 静岡市  
信濃史料刊行会 編 (1961) 『信濃史料 17』 信濃史料刊行会  
— (1962) 『信濃史料 18』 信濃史料刊行会  
島津 俊之 (2012) 「地理学者としての高島北海」 『空間・社会・地理思想』 15 51~75  
頁  
島根県 編 (1965) 『新修島根県史 史料篇 2 近世上』 島根県  
— (1966) 『新修島根県史 史料篇 1 古代・中世』 島根県  
— (1968) 『新修島根県史 通史篇 1 考古・古代・中世・近世』 島根県  
清水町誌編集委員会 編 (1982) 『清水町誌 史料編』 清水町 (和歌山県)  
清水 善和 (2014) 「日本列島における森林の成立過程と植生帯のとらえ方——東アジア  
の視点から——」 『地域学研究』 27 19~75頁  
示野 昇 ほか 編 (1957) 『長宗我部地検帳 土佐郡』 高知県立図書館  
— (1959) 『長宗我部地検帳 長岡郡』 高知県立図書館  
— (1960・1961) 『長宗我部地検帳 安芸郡』 高知県立図書館  
— (1962a) 『長宗我部地検帳 香美郡』 高知県立図書館  
— (1962b・1963a) 『長宗我部地検帳 吾川郡』 高知県立図書館  
— (1963b・1964a) 『長宗我部地検帳 高岡郡』 高知県立図書館  
— (1964b・1965) 『長宗我部地検帳 幡多郡』 高知県立図書館  
下市村史編纂委員会 編 (1958) 『大和下市史』 大和下市町 (奈良県)  
— (1973) 『大和下市史 続編』 大和下市町 (奈良県)  
庄司吉之助 編 (1979) 『会津風土記・風俗帳 2』 吉川弘文館  
— (1980) 『会津風土記・風俗帳 3』 吉川弘文館  
白屋区 編 (1991) 『白屋区誌』 川上村白屋 (奈良県)  
白水 智 (2003) 「山の世界と山野相論——名手・粉河相論を手がかりに——」 峰岸純  
夫編 『日本中世史の再発見』 吉川弘文館 145~164頁  
— (2018) 『中近世山村の生業と社会』 吉川弘文館  
申 政静 (2009) 「植民地期朝鮮・江原地域における火田・火田民に関する研究——「東  
亜日報」記事の分析を中心に——」 『林業経済』 62(6) 1~15頁  
— (2010) 「解放以後の韓国における開墾事業の展開と火田民の増加——1945年から  
1964年までを中心に——」 『林業経済』 63(2) 16~28頁  
進藤 隆・菅原 清康 (1989) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究  
(23) ——焼畑農法の所要労力とその地域性について——」 『農作業研究』 24(3)  
259~265頁  
— (1991) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (24) ——焼畑  
農法における雑草防除対策 (総括) ——」 『農作業研究』 26(1) 7~12頁

- 進藤 隆・菅原 清康・植木 邦和 (1988) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (20) ——火入れによる雑草の抑草効果——」 『農作業研究』 23(2) 111~116頁
- 眞保 潤一郎 (1977) 「韓国における火田民 Hwa jon min の現況について」 『高崎経済大学論集』 19(4) 109~136頁
- 末松 保和 編 (1980) 『朝鮮研究文献目録——論文・記事篇——』 汲古書院
- 須賀 丈・岡本 透・丑丸敦史 (2012) 『草地と日本人——日本列島草原1万年の旅——』 築地書館
- 菅原 清康 (1979a) 「熟畑化過程における雑草植生の変遷に関する研究 (8) ——焼畑農法における雑草植生の変化——」 『雑草研究』 24(2) 74~80頁
- (1979b) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (1) ——作付体系とその収量, 雑草ならびに土壌の化学的性質との関係——」 『農作業研究』 36 23~29頁
- (1979c) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (2) ——わが国における焼畑農法の類型と基本的作付体系——」 『農作業研究』 36 30~37頁
- (1980a) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (3) ——作付体系の成立要因に関する一考察——」 『農作業研究』 38 43~48頁
- (1980b) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (4) ——新潟県における焼畑農法の類型と作付体系の成立要因について——」 『農作業研究』 39 31~38頁
- (1980c) 「焼畑農法の中における雑草防除対策」 『雑草研究』 25(4) 300~303頁
- 菅原 清康・進藤 隆 (1980) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (5) ——新潟県実川地区における焼畑の畑作体系とその成立要因について——」 『農作業研究』 40 33~39頁
- (1981a) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (6) ——秋山郷における焼畑の作付体系とその成立要因について——」 『農作業研究』 42 37~44頁
- (1981b) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (7) ——焼畑に関係する俚言による作付体系の成立要因の推究——」 『農作業研究』 42 45~50頁
- (1981c) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (8) ——焼畑農法に関する俚言と農作業——」 『農作業研究』 43 24~30頁
- (1982a) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (9) ——新潟県穴藤地区における焼畑の類型と作付体系の成立要因——」 『農作業研究』 45 9~15頁
- (1982b) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (10) ——エゴマの配列が焼畑の雑草植生におよぼす影響——」 『農作業研究』 45 16~24頁

- (1983a) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (11) ——旧焼畑農法の中における雑草防除対策——」 『農作業研究』 48 1～8頁
- (1983b) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (12) ——特定樹種の焼却による抑草効果——」 『農作業研究』 48 9～16頁
- (1984a) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (13) ——焼畑から普通畑への移行について——」 『農作業研究』 51 29～33頁
- (1984b) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (14) ——生育時期別エゴマ浸出液が雑草の発芽および生育におよぼす影響——」 『農作業研究』 51 34～39頁
- (1985a) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (15) ——桧枝岐地区における旧焼畑農法の作付体系とその成立要因——」 『農作業研究』 54 67～72頁
- (1985b) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (16) ——焼畑放棄後における植生の変遷——」 『農作業研究』 54 73～80頁
- (1986a) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (17) ——焼畑農法に関する俚言(補遺) ——」 『農作業研究』 21(3) 8～15頁
- (1986b) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (18) ——佐渡島における焼畑の作付体系とその成立要因について——」 『農作業研究』 21(3) 16～21頁
- (1987) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (19) ——焼畑における耕耘および除草と雑草植生との関係——」 『農作業研究』 22(3) 191～198頁
- (1988a) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (21) ——焼畑における病害虫および鳥害の防除法——」 『農作業研究』 23(3) 189～195頁
- (1988b) 「焼畑農法における作付体系とその成立要因に関する研究 (22) ——焼畑における獣害の防除法——」 『農作業研究』 23(3) 196～201頁
- 諏訪史談会 編 (1985) 『諏訪藩主手元絵図』 諏訪史談会
- (1996) 『諏訪史蹟要項17 諏訪史湖南篇』 郷土出版社
- 諏訪市史編纂委員会 編 (1988) 『諏訪市史 中巻』 諏訪市
- 関戸 明子 (2000) 『村落社会の空間構成と地域変容』 大明堂
- (2011) 「近代における林野利用と山村の生業——長野県旧堺村の部落有林野統一事業をめぐって——」 湯本貴和編 『山と森の環境史 日本列島の3万5千年——人と自然の環境史5——』 (池谷和信・白水智責任編集) 文一総合出版 259～280頁
- (2012) 「焼畑の盛衰と入会林野の利用」 白水智編 『新・秋山紀行』 高志書院 58～73頁
- 善生 永助 (1926a) 『火田の現状』 朝鮮総督府調査資料15

- (1926b) 「朝鮮における火田の分布」 『朝鮮』 132 11～28頁
- (1933) 『朝鮮の聚落 前篇』 朝鮮総督府調査資料38
- 相馬 正胤 (1953) 「四国山脈西部に於ける焼畑耕地の転移 (第1報) ——愛媛県予土境域4村について——」 『愛媛大学紀要第4部 社会科学』 1(4) 377～396頁
- (1956) 「愛媛県中久保部落における焼畑耕作と土地所有形態」 『地理学評論』 29 457～470頁
- (1959) 「高知県寺川部落における焼畑経営の構造」 『地理学評論』 32 229～246頁
- (1961) 「中国四国の焼畑」 大明堂編集部編『日本地誌ゼミナール7 中国と四国』 大明堂 206～215頁
- (1962) 「四国山岳地方における焼畑経営の地域構造」 『愛媛大学紀要第4部 社会科学』 4(1) 1～79頁
- 曾根 総雄 (1974) 「祖谷山の近世村落の形成」 『湘南史学』 1 2～20頁
- (1986) 「天正期の阿波国祖谷山一揆について」 秋澤繁編『戦国大名論集15 長宗我部氏の研究』 吉川弘文館 297～316頁
- 台湾総督府民政部殖産局 (1915) 『台湾森林図説明書』 台湾総督府
- 高木 徳郎 (2008) 『日本中世地域環境史の研究』 校倉書房
- 高島 得三 (1879a) 「甲斐国内樹類生育景況」 『地理局雑報』 11 63～80頁
- (1879b) 「伊豆国山林樹木地質調査報告」 『山林局雑報』 15 1～72頁
- (1882) 「植物帯ノ解」 『大日本山林会報告』 10 234～240頁
- (1883) 「造林の目的」 『大日本山林会報告』 13～18 16～24頁・82～85頁・151～154頁・219～223頁・278～282頁・344～347頁
- 高島 得三・田中 壤 (1880) 『木曾山林報告』 内務省山林局
- 高橋 廣明 (1980) 「伊豆における近世初期徳川検地に関する研究ノート」 『田文協』 (田方地区文化財保護連絡審議委員等連絡協議会) 5 44～72頁
- (1984) 「伊豆の初期検地と夫役」 『歴史手帖』 12(4) 25～30頁
- 高橋 不二夫 (1914) 「林野の利用と農業の経営」 『帝国農会報』 4(1)・(3)・(4) 14～19頁・20～23頁・13～16頁
- 高牧 實 (1971) 「美濃における文禄の山改め・野改めについて」 『徳川林政史研究所研究紀要』 昭和45年度 65～84頁
- 滝澤 主税 編 (1985) 『明治初期長野県町村絵地図大鑑IV 南信篇』 郷土出版社
- 瀧本 誠一 編 (1915a) 『日本経済叢書 5』 日本経済叢書刊行会
- (1915b) 『日本経済叢書 8』 日本経済叢書刊行会
- (1915c) 『日本経済叢書 9』 日本経済叢書刊行会
- (1915d) 『日本経済叢書 14』 日本経済叢書刊行会
- (1917a) 『日本経済叢書 20』 日本経済叢書刊行会
- (1917b) 『日本経済叢書 31』 日本経済叢書刊行会

- (1923) 『続日本経済叢書 2』大鏡閣
- (1926) 『佐藤信淵家学全集 中』岩波書店
- (1930) 『日本経済大典 4』史誌出版社
- 竹井 恵美子・小林 央往・阪本 寧男 (1981) 「紀伊山地における雑穀の栽培と利用ならびにアワの特性」 『季刊人類学』12(4) 156~197頁
- 武井 弘一 (2001) 「近世の焼畑についての一試論——人吉藩のコバ型を事例に——」 『史海』48 1~10頁
- (2003) 「近世九州の山村と焼畑——人吉藩預所椎葉山を事例に——」 木村茂光編 『雑穀——畑作農耕論の地平——』青木書店 143~159頁
- (2006) 「山方の百姓」 後藤雅知編 『身分的周縁と近世社会 1 大地を拓く人びと』吉川弘文館 17~44頁
- (2007) 「近世の山村と生業——生業の三重構造という視点——」 『宮崎県地域研究』21 1~19頁
- 竹内 勉 (2009) 『稗搗き節の焼畑と彼岸花の棚田』本阿弥書店
- 武田 正三 (1957) 『本多静六伝』埼玉県立文化会館
- 竹田 晋也・渡辺 弘之 (1995) 「新潟県山北町の焼畑林業——焼畑面積の推移と焼畑林業の現状——」 『京都大学農学部演習林報告』67 31~39頁
- 武田 正 (1972) 『置賜民俗誌』みどり新書の会
- 竹本 豊重 (1991) 「地頭と中世村落——備中国新見荘——」 石井進編 『中世の村落と現代』吉川弘文館 255~350頁
- 只見町史編さん委員会 編 (1993) 『只見町史 3』只見町 (福島県)
- 橘 礼吉 (1995) 『白山麓の焼畑農耕——その民俗学的生態誌——』白水社
- 館岩村史編さん委員会 編 (1992) 『館岩村史 4』館岩村 (福島県)
- 田中 喜次次 (1903) 『韓国森林視察復命書』農商務省山林局
- 田中 啓爾・幸田 清喜 (1927) 「白山山麓に於ける出作地帯」 『地理学評論』3 281~298頁・382~396頁
- 田中 壤 (1885) 『大日本本洲四国九州植物帯調査報告』山林局
- (1887) 『校正大日本植物帯調査報告』山林局
- (1900) 「北海道植物帯に就て」 『大日本山林会報』209 11~22頁
- 田中 誠二 (1996) 『近世の検地と年貢』塙書房
- 田中 豊治 (1981a) 「日本畑作農業展開と切畑の位置づけ」 『歴史地理学』114 13~27頁
- (1981b) 「焼畑、牧、牧畑と日本畑作農業展開問題」 『歴史地理学紀要』23 85~106頁
- (1982・1984) 「近世関東の畑請地の歴史地理的検討」 『歴史地理学』119・124 1~15頁・29~35頁
- 田邊 輝實 (1893) 「原野ニ就テ」 『大日本山林会報告』127 13~19頁

- 谷 彌兵衛 (2008) 『近世吉野林業史』 思文閣出版
- 谷川 健一 編 (1994) 『日本民族文化資料集成13 民俗と地名1 民俗地名語彙辞典 上』  
三一書房
- 玉井 道敏 (2010) 「焼畑と赤カブ——福井県美山町河内の焼畑による赤カブ栽培体験録——」 『農耕の技術と文化』 27 42~65頁
- 千葉 徳爾 (1972) 「天竜川溪谷の焼畑——佐久間町蒲川の文書資料について——」 『愛知大学総合郷土研究所紀要』 17 17~29頁
- (1973) 『はげ山の文化』 学生社
- (1981) 「美濃越前山地の焼畑耕作地帯における袖乞巡礼について」 『愛知大学総合郷土研究所紀要』 26 75~82頁
- (1986) 『近世の山間村落』 名著出版
- (1991) 『増補改訂 はげ山の研究』 そしえて
- 千葉徳爾・三枝幸裕 (1983) 「中部日本白山麓住民の季節的放浪慣行——牛首地区の事例を中心に——」 『国立民族学博物館研究報告』 8 253~306頁
- 朝鮮総督府 編 (1915) 「朝鮮林野分布図」 朝鮮総督府
- (1929) 『朝鮮総督府及所属官署職員録』 (昭和四年版) 朝鮮総督府
- (1931) 『朝鮮総督府及所属官署職員録』 (昭和六年版) 朝鮮総督府
- (1932) 『朝鮮総督府及所属官署職員録』 (昭和七年版) 朝鮮総督府
- (1938) 『朝鮮総督府及所属官署主要刊行図書目録』 朝鮮総督府
- 朝鮮総督府警務局図書課 編 (1930) 『咸鏡南道甲山郡火田民家放火事件ト諺文紙』 調査資料15
- 朝鮮総督府山林部 編 (1928) 『火田整理ニ関スル参考書』 朝鮮総督府山林部
- (1929) 『火田整理ニ関スル参考書 第二冊』 朝鮮総督府山林部
- 朝鮮総督府農商工部 編 (1910) 「朝鮮林野分布図」 朝鮮総督府農商工部
- (1912) 「朝鮮林野分布図」 朝鮮総督府
- 朝鮮総督府農林局 編 (1932) 『火田民指導計画調査報告』 朝鮮総督府農林局
- (1934) 『北鮮開拓事業計画に依る火田民指導及森林保護施設概要』 朝鮮総督府農林局
- 朝鮮総督府農林局林政課 編 (1942) 『昭和十六年度山農指導実績』 朝鮮総督府農林局林政課
- 朝鮮総督府臨時土地調査局 編 (1916) 『西北鮮地方ニ於ケル火田ニ関スル調査』 朝鮮総督府臨時土地調査局
- 朝鮮総督府林政課 編 (1939) 『全鮮林野内火田統計表』 朝鮮総督府林政課
- 塚本 学 (1993) 『小さな歴史と大きな歴史』 吉川弘文館
- 辻 稜三 (1982) 「韓国の火田の変貌について」 『地理』 27(3) 143~148頁
- 辻本 侑生 (2019) 「近代日本における焼畑の政策的規制と地域社会——岐阜県と福井県の事例から——」 リサーチ福井編集委員会編 『リサーチ福井』 リサーチ福井編集



- 委員会 1～12頁
- 筒井 迪夫 (1974) 『森林法の軌跡』 農林出版  
 —— (1987) 『日本林政の系譜』 地球社
- 帝国森林会 編 (1925) 『帝国林業綜覧』 帝国森林会
- 天童市史編纂委員会 編 (1975) 『天童市史編集資料 2』 天童市  
 —— (1979) 『天童市史編集資料 12』 天童市
- 土井林学振興会 編 (1974) 『朝鮮半島の山林』 土井林学振興会発行
- 東京大学史料編纂所 編 (1953) 『大日本古文書 家わけ第16 島津家文書 2』 東京大学  
 —— (1984) 『大日本史料 第12篇32』 東京大学出版会  
 —— (1989) 『大日本史料 第11篇10』 東京大学出版会
- 道家 充之・長倉 純一郎・永田 正吉・西田 又二 (1906) 『韓国森林調査書』 農商務省山林局
- 東北芸術工科大学東北文化研究センター 編 (2003) 『東北文化の広場 6 牛房野のカノカブ——山形県尾花沢市牛房野の焼畑——』 東北芸術工科大学東北文化研究センター
- 遠山 益 (2006) 『本多静六 日本の森林を育てた人』 実業之日本社
- 徳井 賢 (1977) 「火田民を訪ねて」 『地理』 22(7)・(8) 74～83頁・60～66頁  
 —— (2013) 『朝鮮半島の火田民』 文芸社
- 所 三男 (1939) 「寛文版『地方聞書』に就て」 『社会経済史学』 9 181～204頁
- 栃木県史編さん委員会 編 (1975) 『栃木県史 史料編 3 近世 3』 栃木県
- 鳥取県 編 (1977) 『鳥取県史 8 近世資料』 鳥取県  
 —— (1979) 『鳥取県史 3 近世 政治』 鳥取県  
 —— (1981) 『鳥取県史 4 近世 社会経済』 鳥取県
- 長井 政太郎 (1949) 「出羽国検地帳の研究」 『社会経済史学』 15(2) 58～87頁
- 長井 政太郎・加藤 誠二 (1938) 「田麦野村」 『地理学』 6(2) 238～244頁
- 長池 敏弘 (1969) 「田中壤の生涯とその事蹟」 『北方林業』 21(3) 80～86頁  
 —— (1973) 「高島得三の生涯とその事蹟」 『林業経済』 294・295 26～36頁・18～25頁  
 —— (1975) 「明治期における北海道の森林状況——田中壤の北海道遊記を中心に——」 『北方林業』 27 231～236頁・273～279頁・303～310頁・330～332頁  
 —— (1977) 「ハインリッヒ・マイルの日本山林巡回とその影響について——田中壤日記を中心として——」 『林業経済』 340・342 8～22頁・12～19頁  
 —— (1989・1990) 「田中壤の生涯とその事蹟」 『林業経済』 489・494・501・502 17～28頁・25～27頁・21～27頁・22～30頁
- 中小路 純 (1992) 「甲州郡内領における近世初期の検地について——朝日馬場村の文禄・寛文検地の検討——」 『一橋論叢』 108(2) 230～256頁
- 長沢 利明 (1987～1989) 「日記資料からみた焼畑農民の生活誌——山梨県南巨摩郡早川



- 町奈良田の事例——」『法政大学教養部紀要』63・67・71 91～149頁・29～82頁・65～106頁
- 中島 弘二 (1986)「脊振山麓東脊振村における伝統的環境利用——主体的環境区分をとおして——」『人文地理』38 41～55頁
- (2000)「十五年戦争期の緑化運動——総動員体制下の自然の表象——」『北陸史学』49 1～22頁
- (2010)「日本植民地主義と自然——アジア・太平洋戦争期の緑化運動——」『生物学史研究』84 51～71頁
- 中津村史編纂委員会 編 (1996)『中津村史 通史編』中津村 (和歌山県)
- 中根 隆行 (2004)『〈朝鮮〉表象の文化誌——近代日本と他者をめぐる知の植民地化——』新曜社
- 長野県 編 (1973)『長野県史 近世史料編 5 (1)』長野県史刊行会
- (1975)『長野県史 近世史料編 3』長野県史刊行会
- (1977)『長野県史 近世史料編 4 (1)』長野県史刊行会
- (1986)『長野県史 近代史料編 5 (4)』長野県史刊行会
- (1987)『長野県史 通史編 4 近世 1』長野県史刊行会
- (1991)『長野県史 近代史料編 5 (1)』長野県史刊行会
- 中村明蔵 (1981)「大隅・薩摩の農耕をめぐる一つの問題——焼畑経営の軌跡を追って——」『鹿児島史学』28 1～32頁
- 中山 正典 (2013)『富士山は里山である——農がつくる山麓の風景と景観——』農山漁村文化協会
- 那須 貞太郎 編 (1979)『西川町史編集資料 9』西川町教育委員会 (山形県)
- 那須 恒吉 編 (2001)『西川町史資料 19』西川町教育委員会 (山形県)
- 南 富鎮・白川 豊 編 (2003)『張赫宙日本語作品選』勉誠出版
- 奈良県立橿原考古学研究所 編 (2003a)『宮の平遺跡 I』奈良県立橿原考古学研究所調査報告84
- (2003b)『宮の平遺跡 II』奈良県立橿原考古学研究所調査報告86
- (2005)『宮の平遺跡 III』奈良県立橿原考古学研究所調査報告89
- 奈良県教育委員会事務局文化財保存課 編 (1961)『十津川』十津川村 (奈良県)
- (1964)『上北山村文化叢書 2 上北山村の歴史』上北山村 (奈良県)
- 西尾 隆 (1988)『日本森林行政史の研究——環境保全の源流——』東京大学出版会
- 西澤 治郎 ほか (1933)「治山治水座談会 (1)」『山林』605 56～61頁
- 西谷 大 (2003)「野生と栽培を結ぶ開かれた扉——焼畑周辺をめぐる植物利用からみた栽培化に関する一考察——」『国立歴史民俗博物館研究報告』105 15～56頁
- 西吉野村史編纂委員会 編 (1963)『西吉野村史』西吉野村教育委員会 (奈良県)
- 丹羽 邦男 (1988)「地租改正における焼畑の把握」『徳川林政史研究所研究紀要』昭和62年度 51～76頁

- (1989) 『土地問題の起源——村と自然と明治維新——』 平凡社
- 沼田 眞・岩瀬 徹 編 (2002) 『図説日本の植生』 講談社
- 根岸 賢一郎・丹下 健・鈴木 誠・山本 博一 (2007) 「千葉演習林沿革史資料 (6) —— 松野先生記念碑と林学教育事始めの人々——」 『演習林』 46 57～121頁
- 農商務省商工局 編 (1907) 『各府県輸出重要品調査報告 群馬・茨城・栃木・山梨・長野』 農商務省商工局
- 農商務大臣官房統計課 編 (1909) 『第二十四次農商務統計表』 東京統計協会出版部
- 農林局林政課 編 (1932) 『北鮮開拓事業計画に依る火田民指導及森林保護施設の概要』 農林局林政課 (朝鮮総督府)
- 農林省 編 (1931) 『日本林制史資料 和歌山藩篇』 朝陽会
- 農林省山林局 編 (1934) 『森林治水事業ノ業績 (第2輯)』 治水関係資料 7
- (1936a) 『焼畑及切替畑ニ関スル調査』 治水関係資料 9
- (1936b) 『国有林野関係法規』 大日本山林会
- 農林大臣官房総務課 編 (1963) 『農林行政史 第5巻』 農林協会
- 野津 和功 (2001) 「朝鮮火田民についての覚書き」 『北東アジア文化研究』 13 55～61頁
- 野本 寛一 (1984) 『焼畑民俗文化論』 雄山閣出版
- パイン, S・J (2003a) 『火——その創造性と破壊性——』 (大平章訳) 法政大学出版局 [Pyne, S. J. (1995) *World Fire: The Culture of Fire on Earth*. Henry Holt and Company]
- (2003b) 『ファイア——火の自然誌——』 (寺島英志訳) 青土社 [Pyne, S. J. (2001) *Fire: A Brief History*. University of Washington Press]
- (2014) 『図説 火と人間の歴史』 (鎌田浩毅監修、生島緑訳) 原書房 [Pyne, S. J. (2012) *Fire: Nature and Culture*. Reaktion Books]
- 萩野 敏雄 (1965) 『朝鮮・満洲・台湾林業発達史論』 林野弘済会
- (1984) 『日本近代林政の基礎構造——明治構築期の実証的研究——』 日本林業調査会
- 朴 慶植 編 (1989) 『朝鮮問題資料叢書11 日本植民地下の朝鮮思想状況』 アジア問題研究所
- 朴 仁植 (2007) 『植民地朝鮮における民間三紙許可の政治的意図』 富士ゼロックス小林節太郎記念基金
- 橋田 庫欣 (1985) 「土佐の古地検帳」 『土佐史談』 169 8～13頁
- 橋本市史編さん委員会 編 (1974) 『橋本市史 上巻』 橋本市
- 橋本 傳左衛門 (1931) 「朝鮮の火田」 橋本傳左衛門ほか編『農業経済の理論と実際——横井時敬先生記念論文集——』 明文堂 15～48頁
- 畑井 弘 (1976a) 「山野の聖域的領有と焼畑農民の反逆——百姓焼石上神山播蒔禾豆——」 『ヒストリア』 71 24～44頁

- (1976b) 「山野の聖域的占取と焼畑農耕民の反抗——非律令的世界の反逆——」  
『日本歴史』336 41～59頁
- (1976c) 「奈良・平安時代の焼畑農業——古代～中世史における山野の問題の再検討——」大阪歴史学会編『中世社会の成立と展開』吉川弘文館 1～139頁
- (1978) 「滅びた焼畑農業の村を訪ねて——奈良県吉野郡大塔村篠原の場合——」  
『甲南大学紀要文学編』32 47～58頁
- (1981) 『律令・荘園体制と農民の研究——焼畑・林田農業と家地経営——』吉川弘文館
- 八田 二三一 (1999) 「長野県遠山郷山地斜面住民の民俗分類からみた環境認知」『地理学評論』72 789～807頁
- 埜 狼星 (2009) 「アフリカの里山——熱帯林の焼畑と半栽培——」『半栽培の環境社会学』(宮内2009を参照) 94～116頁
- 林 一六・沼田 真 (1968) 「植物群落の遷移に関する理論的考察」『雑草研究』7 1～11頁
- 林 宏 (1980) 『吉野の民俗誌』文化出版局
- 原田 信男 (2004) 「小国山間部の近世村落」佐藤宏之編『小国マタギ 共生の民俗知』農山漁村文化協会 118～155頁
- (2007) 「歴史学から見た焼畑の把握と農法」『季刊東北学』11 35～49頁
- (2008) 『中世の村のかたちと暮らし』角川書店
- (2011a) 「近世農政家の焼畑観——対馬の陶山鈍翁を中心に——」『焼畑の環境学』(原田・鞍田2011を参照) 144～167頁
- (2011b) 「中日火耕・焼畑史料考」『焼畑の環境学』(原田・鞍田2011を参照) 521～547頁
- 原田 信男・鞍田 崇 編 (2011) 『焼畑の環境学——いま焼畑とは——』(佐藤洋一郎監修) 思文閣出版
- 針谷 重懋 (1895) 「山林の結果」『中央農事報』3 18～20頁
- 藩政史研究会 編 (1963) 『藩制成立史の総合研究 米沢藩』吉川弘文館
- 東 智美 (2010) 「森林破壊につながる森林政策と「よそ者」の役割——ラオスの土地・森林分配事業を事例に——」市川昌広・生方史数・内藤大輔編『熱帯アジアの人々と森林管理制度——現場からのガバナンス論——』人文書院 66～84頁
- 東根市 編 (1995) 『東根市史 通史篇上』東根市
- 東根市史編集委員会 編 (1978) 『東根市史編集資料4 村差出明細帳1』東根市
- 東吉野村史編纂委員会 編 (1990) 『東吉野村史 史料編上』東吉野村 (奈良県)
- 久武 哲也 (2000) 『文化地理学の系譜』地人書房
- (2008) 「山本徳三郎と森林水源枯渇化理論」『歴史科学』193 22～29頁
- 人吉市史編さん協議会 編 (1981) 『人吉市史1』人吉市教育委員会
- 檜原村 編 (1981) 『東京都西多摩郡 檜原村史』檜原村 (東京都)

- 平井 上総 (2014) 「豊臣期検地一覧 (稿)」 『北海道大学文学研究科紀要』 144 1～45頁
- 平熊 友明 (1913) 『朝鮮森林視察復命書』 農商務省山林局
- 平沢 清人 (1971) 「信濃における秀吉の検地とその影響 (1)」 『信濃』 23 412～424頁
- 広島県 編 (1978) 『広島県史 古代中世資料編 4』 広島県
- (1981) 『広島県史 近世 1』 広島県
- フォン・ヴェアシュア, C (2003) 「日本古代における焼畑と開墾関係の国字について」 『東京大学史料編纂所研究紀要』 13 1～7頁
- 福井 勝義 (1974) 『焼畑のむら』 朝日新聞社
- (1983) 「焼畑農耕の普遍性と進化——民俗生態学的視点から——」 大林太良ほか 『日本民俗文化体系 5 山民と海人』 小学館 235～274頁
- (1994) 「自然の永続性——焼畑と牧畜における遷移と野火の文化化——」 掛谷誠 編 『地球に生きる 2 環境の社会化』 雄山閣 115～142頁
- (2018) 『焼畑のむら——昭和45年、四国山村の記録——』 福井勝義記念資料室
- 福井県 編 (1985) 『福井県史 資料編 5』 福井県
- (1987) 『福井県史 資料編 6』 福井県
- 福岡県農地改革史編纂委員会 編 (1950) 『福岡県農地改革史 上 農地改革前史』 農地委員会福岡県協議会
- 福嶋 司・岩瀬 徹 編 (2005) 『図説 日本の植生』 朝倉書店
- 福島県 編 (1971) 『福島県史 2 通史編 2 近世 1』 臨川書店
- (1986) 『福島県史 10下 資料編 5下 近世資料 4』 臨川書店
- 福田 珠己 (1989) 「四国山地旧焼畑村落における環境区分——高知県吾川村上名野川の小字名を事例として——」 『人文地理』 41 364～374頁
- 藤田 佳久 (1968) 「大井川上流域における村持林野の成立」 『地理学評論』 41 297～309頁
- (1971) 「徳島県那賀川上流域における林野所有の形成」 『地理学評論』 44 467～478頁
- (1974) 「奥吉野篠原部落における林野所有の形成」 『人文地理』 26 347～379頁
- (1981) 『日本の山村』 地人書房
- (1986) 「吉野川上流域における近世の村落構造の性格と育林の展開——吉野林業の地域形成とその地域構造に関する研究——」 『徳川林政史研究所研究紀要』 昭和60年度 221～270頁
- (1988) 「旧韓国時代の朝鮮における森林資源と林野利用——「韓国森林視察復命書」からの復元——」 『愛知大学国際問題研究所紀要』 85 1～34頁
- (1989a) 「近世初期における十津川山村の形成と村落構成——十津川郷池穴と舟ノ川郷篠原——」 『愛知教育大学地理学報告』 68 89～96頁
- (1989b) 「愛知県豊根村の明治中期における焼畑の分布と経営規模」 『愛知大学

- 総合郷土研究所紀要』34 16～40頁
- (1989c)「旧韓国時代末の朝鮮における森林資源の評価と経営管理プラン——「韓国森林調査書」にあらわれた日本側からの分析——」『愛知大学国際問題研究所紀要』87 1～40頁
- (1992)『奥三河山村の形成と林野』名著出版
- (1993)「旧韓国時代末期の北韓地方における森林資源の分布と木材生産プラン——「北韓森林調査書」による分布——」『愛知大学国際問題研究所紀要』99 194～234頁
- (1995a)『日本・育成林業地域形成論』古今書院
- (1995b)「近世末(1850年頃)の林野利用」氷見山幸夫ほか編『アトラス 日本列島の環境変化』朝倉書店 78～79頁
- (1995c)「明治大正期(1900年頃)の林野利用」氷見山幸夫ほか編『アトラス 日本列島の環境変化』朝倉書店 80～81頁
- (1998)『吉野林業地帯』古今書院
- 藤森 栄一 (1950)「日本原始陸耕の諸問題——日本中期縄文時代の一生産形態について——」『歴史評論』4(4) 41～46頁
- 藤原 康雄 (1911)『町村自治の発展策 公有林野整理経営』三浦書店
- 古島 敏雄 (1940)「焼畑農業の歴史的 성격とその耕作形態」『農業経済研究』16(1) 34～69頁
- (1943)『近世日本農業の構造』日本評論社
- (1974)「解題」古島敏雄『古島敏雄著作集 3』東京大学出版会 1～19頁
- 平安南道 編 (1936)『民有火田整理計画』平安南道
- 平安北道 編 (1936)『北鮮開拓事業計画に依る火田民指導施設概要』平安北道
- 北條 浩 (1975)『公有林野政策と入会の変容——長野県山ノ内町における財団法人和合会の歴史——』徳川林政史研究所
- (1979)『林野法制の展開と村落共同体』御茶の水書房
- 堀 伝蔵 編 (1976a)『西川町史編集資料 2』西川町教育委員会 (山形県)
- (1976b)『西川町史編集資料 5』西川町教育委員会 (山形県)
- (1979)『西川町史編集資料 8』西川町教育委員会 (山形県)
- 洪 慶姫 (1994)『日本에서 發行된 韓國地理關係 文献目録 1868-1991』(韓文) 図書出版曉林
- 本宮町史編さん委員会 編 (2004)『本宮町史 通史編』本宮町 (和歌山県)
- 本多 静六 (1894)『林政学 前編——国家と森林の關係——』私家版
- (1897a)『もりそん探検談』(出版者不詳)
- (1897b)「本多静六氏台湾森林に関する談話の要領」『大日本山林会報』169 85～89頁
- (1897c)「モリソン探検談」『同方会報告』5・6 16～26頁・1～9頁

- (1899a) 『提要造林学』 博文館
- (1899b) 「台湾ノ森林帯ニ就テ」 『植物学雑誌』 13 229～237頁・253～259頁・281～290頁
- (1899c) 「日本ノ植物帯殊ニ森林帯ニ就テ」 『東洋学芸雑誌』 218～220 454～467頁・497～504頁・28～36頁
- (1900a) 「日本森林植物帯論」 『大日本山林会報』 205～207 4～35頁・7～39頁・1～25頁
- (1900b) 『日本森林植物帯論』 私家版
- (1900c) 「我国地力ノ衰弱ト赤松」 『東洋学芸雑誌』 230 465～469頁
- (1902a) 『实用森林学』 早稲田農園
- (1902b) 「日本植物地理に就て」 『地学雑誌』 14 8～18頁・51～76頁・223～237頁・297～325頁
- (1903) 『増訂林政学』 博文館
- (1908) 『大增訂 民林改良法講話』 三浦書店
- (1910) 『根本的治水策』 岩崎周作
- (1911) 『本多造林学 後論ノ一 副産物造林法』 三浦書店
- (1912) 『本多造林学 前論ノ三 改正日本森林植物帯論』 三浦書店
- (1916) 『本多造林学 前論ノ二 世界森林帯論』 三浦書店
- (1923) 『朝鮮ニ於ケル火田ノ性質及改良策』 朝鮮総督府
- (2006) 『本多静六自伝 体験八十五年』 実業之日本社
- 本多 隆成 (1980) 「初期徳川氏の検地と農民支配——五ヶ国総検地を中心に——」 『日本史研究』 218 32～70頁
- 前田河 廣一郎 (1938) 『火田』 六芸社
- 増野 高司 (2005) 「焼畑から常畑へ——タイ北部の山地民——」 『熱帯アジアの森の民』 (池谷2005を参照) 149～178頁
- 松阪市史編さん委員会 編 (1978) 『松阪市史 4 史料篇 検地帳 1』 蒼人社
- 松下 智 (2002) 『ヤマチャの研究——日本茶の起源・伝来を探る——』 岩田書院
- (2005) 『日本茶の自然誌——ヤマチャのルーツを探る——』 あるむ
- 松下 志朗 (1984) 『幕藩制社会と石高制』 塙書房
- (1996) 『石高制と九州の藩財政』 九州大学出版会
- 松本 繁樹 (2000) 『山地・河川の自然と文化——赤石山地の焼畑文化と東海型河川の洪水——』 大明堂
- (2006) 『焼畑研究雑考——赤石山地のかつての焼畑をめぐって——』 静岡新聞社
- (2008) 『焼畑研究雑考Ⅱ——ソバ・ヒエ・イモ・キヌサヤ豌豆の焼畑栽培とその食法・食文化をめぐって——』 静岡新聞社
- (2012) 『焼畑研究雑考Ⅲ——中国地方にはなぜ焼畑が少なかったのか——』 静岡新聞社

- 松本 寿三郎 (1982) 「肥後国検地帳の再検討 (1) ——天正17年検地帳をめぐる——」  
『熊本大学文学部論叢』 9 1～23頁
- 松本 武祝 (2011) 「研究会のまとめに代えて——植民地朝鮮の視点から——」 井上貴  
子編『森林破壊の歴史』明石書店 178～198頁
- 松本 豊寿 (1958) 「太閤検地の一環としての『長宗我部検地』の村落論——その歴史地  
理学的考察——」『地理学評論』 31 601～613頁
- 三浦 伊八郎 (1932) 「原野火入れの草及土に及ぼす影響に就て」『林学会雑誌』 14  
359～370頁
- 三浦 保寿 (1969・1972) 「椎葉村焼畑検地帳の歴史地理学的研究」『歴史地理学紀要』  
11・14 5～18頁・179～192頁
- 三重県 編 (1993) 『三重県史 資料編 近世1』三重県
- 水野 祥子 (2006) 『イギリス帝国からみる環境史——インド支配と森林保護——』岩波  
書店
- (2007) 「大戦間期イギリスの森林保護——帝国林学協会を通して——」『関西西  
洋史論集』 30 15～23頁
- (2009) 「イギリス帝国における保全思想」池谷和信編『地球環境史からの問い  
——ヒトと自然の共生とは何か——』岩波書店 314～327頁
- (2012a) 「イギリス帝国における林学の展開とインドの経験——帝国林学会議の焼  
畑移動耕作に関する議論を中心に——」『林業経済研究』 58(1) 27～36頁
- (2012b) 「大戦間期イギリス帝国における森林管理制度と現地住民の土地利用」  
『歴史学研究』 893 45～56頁
- (2015) 「イギリス帝国の科学者ネットワークと資源の開発・保全」『歴史学研  
究』 937 11～20頁
- (2016) 「イギリス帝国の環境史——開発・保全・エコロジー——」『歴史評論』  
799 47～58頁
- 水本 邦彦 (2003) 『草山の語る近世』山川出版社
- 溝口 常俊 (1982) 「甲州における近世焼畑村落の研究」『名古屋大学文学部研究論集』  
83 (史学28) 75～108頁
- (1983) 「甲州における近世焼畑村落の生業」『名古屋大学文学部研究論集』 86  
(史学29) 273～289頁
- (1986) 「焼畑村落の展開過程に関する歴史地理学的研究——飛騨白川郷を例とし  
て——」『人文地理』 38 97～122頁
- (1998) 「屋久島中間村における切替畑利用の変遷」『名古屋大学文学部研究論  
集』 131 (史学44) 141～154頁
- (2002) 『日本近世・近代の畑作地域史研究』名古屋大学出版会
- 南部町史編さん委員会 編 (1997) 『南部町史 通史編2』南部町 (和歌山県)
- 皆見 和彦・久武 哲也 (1999) 「近代日本における環境史研究の一断章——山本徳三郎



- 論ノート——』『甲南大学紀要文学編』113 50～91頁
- （2000）「旱魃と保安林——山本徳三郎論ノート（Ⅱ）——」『甲南大学紀要文学編』117 84～138頁
- （2001）「戦時体制下における旱魃とその対応——山本徳三郎論ノート（Ⅲ）——」『甲南大学紀要文学編』124 1～69頁
- （2003a）「日本における森林水源枯渇論の成立（Ⅰ）——山本徳三郎ノート（Ⅳ）——」『甲南大学紀要文学編』129 118～167頁
- （2003b）「日本における森林水源渇論の成立（Ⅱ）——山本徳三郎論ノート（Ⅴ）——」『甲南大学紀要文学編』134 19～91頁
- （2004）「大正13年の旱魃と森林水源枯渇論——山本徳三郎論ノート（Ⅵ）——」『甲南大学紀要文学編』139 47～152頁
- （2006）「森林の水源涵養論争をめぐって——山本徳三郎論ノート（Ⅶ）——」『甲南大学紀要文学編』144 133～209頁
- （2007）「山本徳三郎の研究とその著作目録（1911～1944）——山本徳三郎論ノート（Ⅷ）——」『甲南大学紀要文学編』149 11～84頁
- 宮内 泰介 編（2009）『半栽培の環境社会学——これからの人と自然——』昭和堂
- 宮川 満（1999a）『宮川満著作集 第5巻 増補改訂太閤検地論 第Ⅱ部』第一書房
- （1999b）『宮川満著作集 第6巻 改訂太閤検地論 第Ⅲ部』第一書房
- 三宅 正久（1976）『朝鮮半島の林野荒廃の原因——自然環境保全と森林の歴史——』農林出版
- 宮嶋 博史・李 成市・尹 海東・林 志弦 編（2004）『植民地近代の視座——朝鮮と日本——』岩波書店
- 宮塚 利雄（1988）「日本植民地下の朝鮮における火田民に関する研究」『高崎経済大学論集』30(3・4) 315～329頁
- 美山村史編纂委員会 編（1991）『美山村史 史料編』美山村（和歌山県）
- （1995）『美山村史 通史編』美山村（和歌山県）
- 宮本 勉 編（1978）『史料編年井川村史 1』名著出版
- 宮本 常一（1942）『吉野西奥民俗探訪録』[復刻：『宮本常一著作集34』未来社]
- 三好 昭一郎（1970）『阿波の古文書 1 阿波の百姓一揆』株式会社出版
- 無記名（1904）「山野火入に対する当局者の談話」『大日本山林会報』265 57～59頁
- （1911a）「朝鮮ニ於ケル火田（即チ我国ノ所謂焼畑）ノ性質及ヒ改良策」『朝鮮総督府月報』1(5) 42～50頁
- （1911b）「朝鮮火田の性質及改良策」『東京経済雑誌』64 904～907頁・954～956頁
- （1911c）「原野火入の利害」『大日本山林会報』343 59頁
- （1918）「福岡県八女郡に於ける野草生産試験に就て」『大日本山林会報』433 56～59頁



- 六車 由実 (2004a) 「焼畑研究ノート——焼畑研究プロジェクトの課題——」 『東北学』 10 276～283頁
- (2004b) 「東北の焼畑——北からの農耕文化論の試み——」 『自然と文化』 76 58～65頁
- (2004c) 「昭和18年の山口弥一郎の牛房野調査に関して」 『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』 3 265～274頁
- (2007) 「山焼きの民俗思想——火を介した自然利用の方法の現代的可能性——」 『季刊東北学』 11 56～71頁
- 村上 直・荒川 秀俊 校訂 (1976) 『算法地方大成』 近藤出版社
- 村田 為治 (1931) 「公有林野の整理に就て」 大日本山林会編『明治林業逸史』 大日本山林会 164～174頁
- 森 彦太郎 編 (1936) 『日高近世史料——紀州文献——』 嵩陽書院
- 森川 潤 (1986) 「ドイツ林学の受容過程——農科大学成立の条件について——」 『作陽音楽大学・作陽短期大学研究紀要』 19(2) 7～22頁
- 森谷 円人 (1978) 「山形藩初期検地の斗代付けについて」 『山形史学研究』 13・14 96～111頁
- 矢嶋 吉司・安藤 和雄 編 (2012) 『ざいちのち——実践型地域研究 最終報告書——』 京都大学東南アジア研究所実践型地域研究推進室
- 泰阜村誌編さん委員会 編 (1984) 『泰阜村誌 上』 泰阜村 (長野県)
- 柳田 國男 (1909a) 『後狩詞記——日向国奈須の山村に於て今も行はる、猪狩の故実——』 私家版
- (1909b) 「山民の生活」 『山岳』 4 368～376頁
- 柳田 國男 編 (1937) 『山村生活の研究』 民間伝承の会
- 山形県 編 (1964a) 『山形県史 資料篇7 検地帳上』 山形県
- (1964b) 『山形県史 資料篇8 検地帳中』 山形県
- (1965) 『山形県史 資料篇9 検地帳下』 山形県
- (1974) 『山形県史 資料篇13 村差出明細帳』 山形県
- (1976) 『山形県史 資料篇16 近世史料1』 山形県
- (1983) 『山形県史 資料篇18 近世史料3』 山形県
- (1985) 『山形県史 通史編2 近世上』 山形県
- 山形県教育委員会 編 (1976) 『月山山麓月山沢・四ツ谷・砂子関・二ツ掛の民俗——寒河江ダム水没地区緊急調査報告——』 山形県教育委員会
- 山形市史編集委員会 編 (1967a) 『山形市史編集資料8 秋元家文書村方差出明細帳1』 山形市史編集委員会
- (1967b) 『山形市史編集資料9 秋元家文書村方差出明細帳2』 山形市史編集委員会
- 山形市総務部総務課分室 編 (1985) 『山形市史資料69 定納之事・定納一紙』 山形市

- 山川町 編 (2000) 『山川町史 増補版』 山川町 (鹿児島県)
- 山口 貞夫 (1938) 「焼畑の地理的分布其他」 『地理学評論』 14 1～23頁
- 山口 隆治 (1984) 「加賀藩の焼畑について」 『石川郷土史学会会誌』 17 36～44頁
- (1992) 「白山麓のむつし (焼畑用地) について」 『地方史研究』 42(2) 29～49頁
- (1994) 『白山麓・出作りの研究——牛首村民の行方——』 桂書房
- 山口 弥一郎 (1939・1940) 「東北地方の焼畑」 『地学雑誌』 51・52 561～571頁・68～78頁
- (1944) 『東北地方の焼畑慣行』 恒春閣
- (1972) 『山口弥一郎選集 日本の固有生活を求めて——東北地方研究—— 3』 世界文庫
- 山崎 彩香・江頭 宏昌 (2009) 「山形県庄内地方における在来カブの種類とその利用方法」 『山形大学紀要 農学』 15(4) 293～307頁
- 山田 龍雄・飯沼 二郎・岡 光男・守田 志郎 編 (1980) 『日本農書全集4』 農山漁村文化協会
- (1982a) 『日本農書全集19』 農山漁村文化協会
- (1982b) 『日本農書全集28』 農山漁村文化協会
- (1983a) 『日本農書全集26』 農山漁村文化協会
- (1983b) 『日本農書全集34』 農山漁村文化協会
- 山中 二男 (1979) 『日本の森林植生』 築地書館
- 山梨県 編 (2001) 『山梨県史 資料編12』 山梨県
- (2006) 『山梨県史 通史編3 近世1』 山梨県
- 山野井 徹 (2015) 『日本の土——地質学が明かす黒土と縄文文化——』 築地書館
- 山辺町史編纂委員会 編 (1999) 『山辺町史 資料集1』 山辺町教育委員会 (山形県)
- 湯本 貴和 編 (2011) 『野と原の環境史 日本列島の3万5千年——人と自然の環境史2——』 (佐藤宏之・飯沼賢司責任編集) 文一総合出版
- 湯本 貴和・須賀 丈 編 (2011) 『信州の草原——その歴史をさぐる——』 ほおずき書籍
- 尹 海東 (2017) 『植民地がつくった近代——植民地朝鮮と帝国日本のもつれを考える——』 (沈熙燦・原佑介訳) 三元社
- 横川 末吉 (1952a) 「近世における高知県の焼畑耕作——寺川郷談による研究——」 『地域』 1(7) 46～49頁
- (1952b) 「高知県の焼畑耕作」 『人文地理』 4 340～349頁
- (1955) 「高知県の焼畑耕作」 『人文地理』 7 41～48頁
- 横山 昭男 編 (1960) 『尾花沢市史の研究』 尾花沢市史料調査委員会
- 横山 英介 (2003) 「北海道における焼畑跡」 『物質文化』 75 1～13頁
- (2009) 『考古学からみた北海道の焼畑——果たしてアイヌは焼畑を営んでいたか——』 北海道考古学研究所設立5周年記念事業会
- (2015) 「アイヌの焼畑農耕」 『季刊考古学』 133 33～36頁

- 横山 智・落合 雪野 編 (2008) 『ラオス農山村地域研究』 めこん
- 横山 昭市 (1954) 「土佐の天正検地帖調査報告」 『新地理』 2(2) 38～44頁
- 吉田 国光 (2017) 「熊本県蘆北町黒岩集落における人工林化にともなう山腹斜面景観の変容——焼畑農業衰退前後の就業動向に着目して——」 『地理学評論』 90 459～474頁
- 吉田 敏弘 (1983) 「中世村落の構造とその変容過程——「小村＝散居型村落」論の歴史地理学的再検討——」 『史林』 66 378～444頁
- 吉野町史編集委員会 編 (1972) 『吉野町史』 吉野町 (奈良県)
- 依田 貞種 (1917a) 「同一地方に於ける林政と他の行政との聯絡」 『大日本山林会報』 413 1～15頁
- (1917b) 「農業と林学との連絡」 『帝国農会報』 7(5) 59～60頁
- ラジ, K (2016) 『近代科学のリロケーション——南アジアとヨーロッパにおける知の循環と構築——』 (水谷智ほか訳) 名古屋大学出版会 [Raji, K. (2007) *Relocating Modern Science*. Palgrave Macmillan]
- 渡邊 忠壽 (1931) 「公有林野の整理統一」 大日本山林会編 『明治林業逸史』 大日本山林会 147～163頁
- 渡辺 為夫 (1986) 『寛永白岩一揆』 私家版

## 欧文

- Anker, P. (2001) *Imperial Ecology: Environmental Order in the British Empire, 1895-1945*. Harvard University Press.
- Barton, G. A. (2001) Empire forestry and the origins of environmentalism. *Journal of Historical Geography* 27(4), pp.529-552.
- (2002) *Empire Forestry and the Origins of Environmentalism*. Cambridge University Press.
- Beinart, W. and Hughes, L. (2007) *Environment and Empire*. Oxford University Press.
- Bennett, B. M. (2011) A network approach to the origins of forestry education in India, 1855-1885. In *Science and Empire* (see Bennett and Hodge 2011), pp.68-88.
- Bennett, B. M. and Hodge, J. M. eds. (2011) *Science and Empire: Knowledge and Networks of Science Across the British Empire, 1800-1970*. Palgrave Macmillan.
- Cairns, M. ed. (2017) *Shifting Cultivation Policies: Balancing Environmental and Social Sustainability*. Centre for Agriculture and Biosciences International.
- Clements, F. E. (1916) *Plant Succession: An Analysis of the Development of Vegetation*. Carnegie Institution of Washington.
- Godlewska, A. (1995) Map, text and image. The mentality of enlightened conquerors: A new look at the *Description de l’Egypte*. *Transaction, Institute of British* xlii (331)

- Geographers* 20, pp.5-28.
- Grove, R. H. (1995) *Green Imperialism: Colonial Expansion, Tropical Island Edens and the Origins of Environmentalism, 1600-1860*. Cambridge University Press.
- Guha, R. (2000) *Environmentalism: A Global History*. Longman.
- Honda S. (1897) Eine Besteigung des Mount Morrison der Insel Formosa. *Mitteilungen der Deutschen Gesellschaft für Natur- und Völkerkunde Ostasiens* 6(60) pp.469-473.
- (1900) *Description des Zones Forestières du Japon*. Maurice de Brunoff.
- Ikeya K. (1987) Rice crops and shifting cultivations in Miomote, Murakami-han in the Edo Era. *The Science Reports of the Tohoku University, 7th Series, Geography* 37, pp.41-51.
- Jones, R. (1969) Fire-stick farming. *Australian Natural History* 16, pp.224-228.
- Komeie T. (2006) Colonial environmentalism and shifting cultivation in Korea: Japanese mapping, research and representation. *Geographical Review of Japan* 79(12), pp.664-679.
- (2020) Devastation and indigenous people in colonial forestry: Representations of Taiwanese and Korean vegetation change in the Japanese Empire. In Liu T.-j. and Muscolino, M. eds. *Management of Land, Water, and Energy: Perspectives on Environmental History in East Asia*, Routledge, forthcoming.
- Mayr, H. (1890) *Monographie der Abietineen des Japanischen Reiches: Tannen, Fichten, Tsugen, Lärchen und Kiefern in Systematischer, Geographischer und Forstlicher Beziehung Bearbeitet*. M. Rieger'sche Universitäts-Buchhandlung.
- Meyers, J. ed. (1889) *Meyers Konversations-Lexikon. Eine Encyclopädie des Allgemeinen Wissens, Band 13*. Bibliographisches Institut.
- Myllyntaus, T., Hares, M., and Kunnas, J. (2002) Sustainability in danger? Slash-and-burn cultivation in nineteenth-century Finland and twentieth-century Southeast Asia. *Environmental History* 7(2), pp.267-302.
- Mizoguchi T. (1988) Slash-and-burn field cultivation in pre-modern Japan: With special reference to Shirakawa-go. *Geographical Review of Japan* 62(1), pp.14-34.
- Morris-Suzuki, T. (2013) The nature of empire: Forest ecology, colonialism and survival politics in Japan's imperial order. *Japanese Studies* 33(3), pp.225-242.
- Nakashima K. (2000) Nationalism, colonialism and the representation of nature: Forest and country in the afforestation campaign. In *2nd International Critical Geography Conference: For Alternative 21st Century Geographies*, Korean Association of Spatial Environmental Research, pp.434-447.
- (2010) Production of forest and the green landscape: Representation and practice of the afforestation campaign in Japan. In Tang, W.-S. and Mizuoka, F. eds., *East Asia: A Critical Geography Perspective*, Kokon Shoin, pp.161-175.

- O'Brien, W. E. (2002) The nature of shifting cultivation: Stories of harmony, degradation, and redemption. *Human Ecology* **30**(4), pp.483–502.
- Ock Han-suk (2000) The changing culture of the Taebaek mountain region. In Organizing Committee of the 29<sup>th</sup> International Geographical Congress ed. *Korea: The Land and People*, Kyohaksa, pp.333–348.
- Onoda K., Miyamoto S., Fujita H., Komeie T., Kawahara N., and Kawaguchi H. (2013) Historical geography in Japan since 1980. *Japanese Journal of Human Geography* **65**(1), pp.1–28.
- Pyne, S. J. (1982) *Fire in America: A Cultural History of Wildland and Rural Fire*. University of Washington Press.
- (1998) *Burning Bush: A Fire History of Australia*. University of Washington Press.
- (2017) *The Great Plains: A Fire Survey*. University of Arizona Press.
- Rajan, S. R. (2006) *Modernizing Nature: Forestry and Imperial Eco-Development 1800–1950*. Oxford University Press.
- Sarmela, M. (1987) Swidden cultivation in Finland as a cultural system. *Suomen Antropologi* **12**(4), pp.241–262.
- Sauer, C. O. (1950) Grassland climax, fire, and man. *Journal of Range Management* **3**, pp.16–21.
- (1962) Fire and early man. *Paideuma* **7**(8), pp.399–407.
- Shin G.-W. and Robinson, M. eds. (1999) *Colonial Modernity in Korea*. Harvard University Asia Center.
- Shishido O. (1903) Uber die Einwirkung des Hara-Brennens. *Bulletin of the College of Agriculture, Tokyo Imperial University* **5**, pp.267–334.
- Sivaramakrishnan, K. (1999) *Modern Forest: Statemaking and Environmental Change in Colonial Eastern India*. Stanford University Press.
- Von Verschuer, C. (2016) *Rice, Agriculture, and the Food Supply in Premodern Japan*. Routledge.
- Yeh Er-Jian (2011a) *Territorialising Colonial Environments: A Comparison of Colonial Sciences on Land Demarcation in Japanese Taiwan and British Malaya*. Doctoral thesis, Durham University. <http://etheses.dur.ac.uk/3199/>
- (2011b) Networks and the environmental knowledge: A case of savage districts in Taiwan during the early Japanese administration. *Bulletin of the Geographical Society of China* (中國地理學會會刊) **47**, pp.1–26.
- Yokoyama S., Hirota I., Tanaka S., Ochiai Y., Nawata E., and Kono Y. (2014) A review of studies on swidden agriculture in Japan: Cropping system and disappearing process. *Tropics* **22**(4), pp.131–155.

図表一覧 ※[ ]は章番号を示す

図 1	19世紀半ばの紀伊半島の林野利用	39[1]
図 2	焼畑・切畑・山畑が検地された諸村	46[1]
図 3	17世紀出羽国村山郡の諸検地にみるカノの分布	74[2]
図 4	元和9年(1623) 検地における田麦野村の概況	76[2]
図 5	元和9年(1623) 検地における狸森村の概況	80[2]
図 6	寛文13年(1673) 検地における砂子関村の概況	84[2]
図 7	天正18年(1590)『真志野村外山畠帳』にみる「下山畑」(下山畠)の分布	126[3]
図 8	山川正龍寺領の地筆に比定される小字	138[3]
図 9	元禄2年(1689)『地方竹馬集』「笠立指南之事」にみる「苺生畑」(国立国会図書館所蔵本)	160[4]
図 10	田中壤の「植物帯」	214[6]
図 11	本多静六の「大日本森林植物帯図」(『改正日本森林植物帯論』1912年)	220[6]
図 12	本多静六の「森林植物帯」	221[6]
図 13	「台湾森林図」(1915年)にみる玉山周辺の植生(台湾総督府民政部殖産局『台湾森林図説明書』)	228[6]
図 14	原野の所有者別台帳面積(1908年)	248[7]
図 15	公有林野所有者別推定面積(1909年)	250[7]
図 16	長野県西筑摩郡の原野面積と馬の頭数(1916年)	267[7]
図 17	「京釜鉄道沿線慶尚北道烏山金山駅附近ノ秃山」(道家充之ほか『韓国森林調査書』1906年)	282[8]
図 18	「朝鮮林野分布図」(1912年版)より咸鏡北道・清津付近(朝鮮総督府農商工部)	283[8]
図 19	「朝鮮林野分布図」(1915年版)より咸鏡北道・清津付近(朝鮮総督府)	284[8]
図 20	「朝鮮林野分布概況図」が示す植生分布	286[8]
図 21	「新南面西興里附近見取図」(小田内通敏『朝鮮部落調査報告 第一冊』1924年)	294[8]
図 22	「定着的火田民家」の例(小田内通敏『朝鮮部落調査報告 第一冊』1924年)	295[8]

表 1	紀伊山地の検地にみる焼畑・切畑・山畑	45[1]
表 2	鳥居領山形藩元和検地（1623～24年）におけるカノ畑	65[2]
表 3	鳥居領山形藩元和検地（1623～24年）の畑斗代	66[2]
表 4	保科領山形藩寛永検地（1638～39年）におけるカノ畑	68[2]
表 5	保科領山形藩寛永検地（1638～39年）の畑斗代	69[2]
表 6	幕府領寛文・延宝検地（1671～75年）におけるカノ畑	72[2]
表 7	幕府領寛文・延宝検地（1671～75年）の畑斗代	72[2]
表 8	元和9年（1623）田麦野村検地帳の地名別集計	77[2]
表 9	元和9年（1623）田麦野村検地帳の名請人別集計	78[2]
表10	元和9年（1623）狸森村検地帳の地名別集計	81[2]
表11	元和9年（1623）狸森村検地帳の名請人別集計	82-83[2]
表12	寛文13年（1673）砂子関村検地帳の地名別集計	85[2]
表13	寛文13年（1673）砂子関村検地帳の名請人別集計	86[2]
表14	狸森村元和検地帳にみる地種変更の注記	90[2]
表15	狸森村における元和検地後の農地拡大	90[2]
表16	天正・文禄・慶長期の検地	101[3]
表17	天正12年（1584）丹羽検地縄打目録の概要	105[3]
表18	天正18年（1590）『眞志野村外山畠帳』の概要	125[3]
表19	鳥津領太閤検地にみる田・畠・山畑の面積	136[3]
表20	「山川正龍寺領目録」に記載された地筆	138[3]
表21	伊豆国文禄・慶長検地目録の概要	143[3]
表22	本多静六による植生帯区分の比較・対照	220[6]
表23	森林・原野の所有者別台帳面積（1908年）	249[7]
表24	公有林野所有者別面積調査（1909年）	249[7]
表25	火田に関する報告書・雑誌記事類の推移	279[8]
表26	『韓国森林調査書』にみる林況の推計（1906年）	281[8]
表27	「朝鮮林野分布図」に示された植生と土地所有（1910年）	285[8]
表28	「要存予定林野」内の「火田整理」の状況	292[8]

# 索引

※韓国（朝鮮）語・中国語の場合は本文中のルビに従って配列した。

## 【人名】

<p style="text-align: center;">あ行</p> <p>秋澤繁 99, 102</p> <p>秋田義一 166</p> <p>秋山伸隆 117</p> <p>浅野氏 43, 110, 131, 159</p> <p>——長政 107, 133, 135</p> <p>網野善彦 19</p> <p>アルヴァレス, ジョルジェ 137</p> <p>アンカー, ペーダー 275</p> <p>安藤時雄 266</p> <p>池上裕子 100</p> <p>池谷和信 14</p> <p>石田三成 135</p> <p>泉英二 17, 52, 59</p> <p>市川健夫 9</p> <p>伊東淳 262, 265~7, 270</p> <p>伊藤寿和 16, 20, 23~5, 30, 44, 59, 63, 98, 100~1, 110, 164</p> <p>植田群司 309~11</p> <p>宇山孝人 111</p> <p>海野氏 129</p> <p>遠藤治一郎 260</p> <p>大石久敬 100, 168, 171, 173</p> <p>大石学 132</p> <p>大賀郁夫 17, 25</p> <p>大河内輝和 168</p> <p>大崎晃 17</p> <p>大住克博 23</p> <p>大田伊久雄 243~4</p> <p>大畑才蔵 163</p>	<p>小椋純一 23, 251</p> <p>小田内通敏 32, 278, 293, 295~6, 298~ 9, 304, 312~3</p> <p>織田氏 102, 115</p> <p>——信長 102</p> <p>小野重雄 113</p> <p>小野武夫 13, 19, 30</p> <p style="text-align: center;">か行</p> <p>梶村秀樹 276, 302, 305, 307</p> <p>加藤清正 112</p> <p>加藤衛拵 17, 25, 144, 157</p> <p>金山耕三 62</p> <p>上山満之進 247, 249, 254</p> <p>川瀬善太郎 191</p> <p>川野和昭 23</p> <p>神尾包髷 158</p> <p>木越隆三 103~4</p> <p>岸崎佐久治 158</p> <p>金存錫 308~9, 311</p> <p>金成七 308</p> <p>木村茂光 14</p> <p>木村修三 260~1</p> <p>木村靖二 12, 202</p> <p>吉良竜夫 230</p> <p>葛間勘一 158, 163</p> <p>久米金彌 249</p> <p>クレグホーン, ヒュー 189</p> <p>クレメンツ, フレデリック・E 210</p> <p>グローヴ, リチャード 275</p> <p>畔田翠山 47</p> <p>黒田日出男 14</p> <p>幸田清喜 9</p> <p>ゴドレフスカ, アン 314</p> <p>小早川氏 107</p> <p>——秀秋 140</p>
--	---



小林寛利	158
高秉雲	17, 32, 276, 291
小堀新介	109
小宮山昌秀	174

さ行

サイード, エドワード	314
齋藤音作	32, 194, 197, 211, 280, 285, 289~91, 312, 323
サウアー, カール	4
酒井氏	73
——忠重	62, 70
阪上信次	192
佐々木高明	10, 14, 20, 40~2, 49, 61~2, 87
佐々木長生	17, 62
佐々木彦一郎	9
佐竹氏	140
佐々成政	112
佐藤敬二	199
佐藤信淵	158, 166, 174
佐藤廉也	6
沢村東平	10
志賀泰山	255
鹿峰田理	158
宍戸乙熊	258~61, 269
柴田氏	104
——勝家	102
島津俊之	213
ジョーンズ, リース	4
新藤隆	10~1
申岐静	17, 276
菅原清康	10~1
諏訪氏	123
関戸明子	245, 263
善生永助	278, 297~8, 302, 304
相馬正胤	9

た行

高島得三	210~3, 216~7, 219, 222~4, 228, 238~40, 255
高橋廣明	141
高橋不二夫	261

高牧實	133
竹井恵美子	41, 49
武井弘一	17
武田氏	129
竹本豊重	20
橋礼吉	10, 16
建部清庵	177
田中喜代次	281
田中啓爾	9
田中壤	210~3, 215~9, 222~4, 226, 228~30, 233~4, 238~40, 256
田中豊治	14
谷彌兵衛	51
千葉徳爾	14~5, 17, 206, 234, 245
張赫宙	314
長宗我部氏	111, 114~6, 145
辻本侑生	18
道家充之	281, 287, 289
徳川氏	114, 118, 120, 133, 141, 145
戸田勝隆	107
豊臣氏	99, 107, 109, 114~5, 118, 140~1 ——秀次 120~1 ——秀長 109 ——秀吉 102, 106~7, 114, 117, 120, 127
鳥居氏	64~7, 73

な行

長池敏弘	216, 223
長井政太郎	75
中小路純	133
中島弘二	211, 244, 277
中村明蔵	19, 139~40
中村一氏	128
成島道筑	166
西尾隆	260
丹羽邦男	18, 26, 175~6
丹羽長秀	104, 143
野本寛一	10, 154, 176

は行

バートン, グレゴリー	26, 275
パイン, ステイーブン	3, 5~7

橋本傳左衛門  
32, 299~301, 303~4, 311, 313  
長谷川六兵衛 158  
畑井弘 14, 19, 23  
蜂須賀氏 111~2  
——家政 110  
原田信男 17, 30, 63, 164  
久武哲也 245  
日根野高吉 123, 127  
平岡直之 158  
平沢清人 127  
ピンショール, ギフォード 190  
フォン・ヴェアシュア, シャルロッテ  
8, 19  
福井勝義 6, 10~1, 18, 22, 57  
福島正則 107  
藤田佳久 15, 37, 41, 277, 281  
武陽隠士泰路 163, 172  
ブランディス, デイトリッヒ 188~90  
古島敏雄 12~4, 19, 25, 30, 98~9, 118,  
122, 127~8, 146, 152~3, 177, 321  
ベネット, プレット・S 28  
保科氏 67, 73  
細川幽齋 136  
本多静六 31~2, 58, 187, 191~9, 202,  
206, 209~13, 216~9, 222, 226, 228~  
41, 256~8, 264, 271, 278, 280, 288~91,  
296~7, 301, 312, 322~4

ま行

マイル, ハイリッヒ 212~3, 215~7,  
219, 222, 226, 230, 238~9  
前田利家 143  
万尾時春 158, 164  
真壁用秀 158, 163, 165~6  
松下智 59  
松下志朗 140  
松本寿三郎 112  
丸山直樹 266  
三浦保寿 14~5, 17, 25  
水野祥子 28, 188~90  
溝口常俊 15, 93  
皆見和彦 245

三宅正久 277  
宮林釜村 266  
宮本勉 129  
六車由実 62  
村田為治 251~2  
毛利氏 114, 116~7, 145  
毛利氏(斯波氏庶流) 127  
——秀頼 127  
最上氏 64~5, 70  
モリス・スズキ, テッサ 29

や行

柳田國男 9  
山口貞夫 9, 41, 202  
山口宗永 140  
山口隆治 17  
山口弥一郎 9, 61~3, 92, 202  
山梨半造 311  
山本徳三郎 193, 246  
横川末吉 13  
横山智 8  
吉田敏弘 20, 138  
依田貞種 261

ら行

ラジャン, S・ラヴィ 28

わ行

若林利朝 161  
若林宗氏 161  
渡邊忠壽 254, 260  
渡辺為夫 62, 70

【事 項】

あ行

『会津農書』	17, 62, 88
会津藩	88, 91
「愛林」思想	277
愛林日	211
アカマツ(赤松)	38, 47, 57, 192, 197~8, 204~5, 215, 222, 224~5, 229~30, 232 ~4, 239, 256, 285~7, 290
赤松亡国論	197, 206, 231~2, 234, 239, 286
秋焼き	42, 48~9
アグロフォレストリー	15, 55, 59, 189, 203, 205
アズキ(小豆)	41, 48, 87, 89
『安倍之内井河之郷わんた村畠帳』	129
アベマキ	227
アボリジニ	4~5
アラキ	11
アラキ型焼畑	62
アラゲ	137
アワ(粟)	41, 48~9, 87~9, 166, 169, 175, 177, 194
『井河中野屋くさわ分畠帳』	129
イギリス帝国	28, 275
育成林業	15, 17, 21~3, 27, 29, 37, 42, 52, 55~6, 186, 320, 324
イタドリ	258
イチイ(樺)	235
イチイガシ	38
『伊奈家地方伝記』	158
『今井之郷検地帳』	123
イモ(芋)	59, 109, 139
キクイモ	310~1
サツマイモ(薩摩芋)	41, 194
サトイモ	41, 47~9
ジャガイモ(馬鈴薯)	41, 294~5, 299, 303, 309~10

入会林野	16, 94, 245
陰樹	229, 231, 233~4, 239~40
ウィルダネス(原生自然)	187
宇都宮藩	92
ウルシ(漆)	53~6
永高制	144, 146
エゴマ	41
エンドウ	41
延宝検地	44, 53, 70, 155~7, 159
『大草之内諸村検地帳』	127
オカボ(陸稻)	194
オリエンタリズム	314
尾張藩	17, 27
温突(オンドル)	198, 287~9

か行

飼い慣らされた火	4~5, 22, 26, 319
外邦図	280
科学的林業	26, 186, 190~1, 193~4, 204, 206, 209, 238, 240, 276
加賀藩	17
学知	31, 240, 246, 254, 262, 270, 272, 275~8, 293, 308~9, 323~4
学理	191, 212, 270
『風早郡忽那島大浦分検地帳』	108
カシ(榊)	38, 51, 216, 219, 222, 224, 228, 230~2, 235, 238
片荒らし	118
火田整理	32, 199~200, 280, 290~3, 296, 298, 301~2, 304, 310~2, 323
火田整理委員会	278, 298
「火田整理に関する件」	292
『火田整理ニ関スル参考書』	299
火田調査	311, 313
火田調査委員会	299, 301~3, 309
「火田調査ニ関スル件」	299
『火田調査報告書』	299, 301
『火田の現状』	290, 297
火田民「指導」	278, 302
火田民収容事業	302
カノ型(焼畑)	61, 87
鹿野畑	61, 67, 69~71, 73, 88~9, 91~2, 98, 146, 165~7, 169~70, 173, 175

- カバ(樺) 230~1  
 カブ(蕪) 10, 41, 62, 87~8  
 甲山火田民事件 302, 305, 313  
 鎌倉幕府 98  
 カヤ(萱) 50~1, 56~7, 164, 169, 171, 247, 258, 260  
 カラマツ 197~8  
 苜蓿 112~3, 121  
 カリヤス(苜安) 265, 269~70  
 苧生(畑) 41, 100, 159~62, 166~7, 169~71, 173, 175~6  
 寛永検地 67, 71, 73, 89, 92  
 環境主義 26, 31, 186, 188, 205, 275~7, 305, 308, 311~4, 322~4  
 『韓国森林視察復命書』 281  
 『韓国森林調査書』 281, 287, 289  
 間接的な森林の有用性 192  
 乾燥化理論 189~90, 193, 246  
 間帯 214~5, 217, 222~6, 230, 239  
 関東御教書 98  
 『勸農固本録』 158, 160, 165  
 寛文検地 44, 70, 73, 84, 144, 155~7, 159, 161  
 気候帯 192, 219, 222  
 木曾山林学校 266  
 『木曾山林報告』 223  
 『北大塩村田畑引得御帳』 123  
 木原 144~5  
 キビ(黍) 48, 89, 139  
 休閑期間 5, 12, 22, 24, 41, 50~1, 54~6, 59~60, 88, 164  
 休閑地 5, 10, 25, 51~2, 57, 103  
 恐火症 7, 21~2  
 郷土観念 296, 312  
 京都帝国大学 299, 311  
 極相(林) 31, 198, 201, 215, 228~9, 231, 234  
 清澄山の帝大演習林 258, 260, 264, 268~9, 271  
 切替畑 9, 15, 41, 100, 113, 118, 128, 137~8, 154, 163~4, 166~7, 169~70, 172~3, 175~6, 196, 201~2  
 切畑 14, 41~3, 46, 48, 50, 52, 54~5, 66, 109, 111, 114~5, 119, 121, 124, 128, 131~3, 135, 144, 146, 153, 157, 162, 165~7, 173, 175  
 —法度 27  
 金峯山寺 40, 110  
 クス(楠) 216  
 クズ(葛) 50~1, 56  
 クスギ(柶・櫟) 168, 215, 222, 230, 236  
 クリ 216~7, 222, 230  
 クリ帯 222, 226, 239  
 『栗屋浦縄打目録』 104  
 クロマツ(黒松) 215, 224~5, 229  
 黒松帯 216  
 『京城日報』 304  
 慶長検地 43~4, 48, 54, 107, 109~10, 113, 142, 144, 159  
 「原生自然」思想 187  
 検地条目 30, 64, 70, 87, 100, 117, 121~2, 130, 132, 135, 140, 146, 153~7, 159  
   和泉国検地条目 43, 131, 133  
   伊勢国検地条目 43, 131, 154  
   奥州会津検地条目 113, 120, 122, 131, 138  
   信州高遠領検地条目 156, 162, 165  
   摂津国検地条目 156  
   美濃国検地条目 107, 113, 120  
 元和検地 67, 69, 71, 73, 79, 89~90  
 元禄検地 44  
 『江州内今在家検地帳』 106  
 「迎接寺領打渡坪付」 117  
 コウゾ(楮) 53~6, 59  
 甲府藩 159, 161  
 高野山(金剛峯寺) 40, 109~10  
 公有原野 263, 267  
 「公有原野取締規則」 263  
 「公有山林取締規則」 263  
 公有林野 249  
 「公有林野整理開発ニ関スル件」 200, 259, 264  
 国字 19, 20~1, 33, 42, 100, 113, 167, 174  
 国有林 28, 215, 246, 251~3, 255, 276, 281, 285, 291~3, 296~7, 302, 306, 312

国有林野官行造林法	244
国有林野整理開発事業	244, 252
「公有林野整理開発ニ関スル件」	252
「公有林野ノ整理ニ関スル件」	247
国有林野法	244
「御前帳」	107, 120, 135
『国境二百里』	309
コナラ(枹)	38, 47, 51, 215, 222, 225, 230, 269
コバ	199
コバ型(焼畑)	42, 49
ゴボウ	41, 47
混農林業	198~9, 203, 205, 292

さ行

菜園型焼畑	62
『最近朝鮮事情』	282
サクセッション説	210, 239
篠山藩	158, 164
雑穀輪作型焼畑	12
薩摩藩	139
砂漠化	192
サバシナ	4
「三郎兵衛山林田島讓状」	103
三・一独立運動	308
山川藪沢公私共利	21
山農指導区	302
『算法地方大成』	166
山林局	9, 12, 28, 40, 191, 200~1, 213, 238, 247, 251~2, 254~5, 258~9, 262, 264, 268, 271, 281
シイ(椎)	38, 224, 231~2, 235
「椎葉山内農業稼方其外品々書付」	27, 178
『塩沢検地野帳』	123
『地方一様記』	158, 163
『地方落穂集』	163, 172~3
『地方聞書』	155~8, 160
『地方支配』	158
『地方袖中録』	158
『地方竹馬集』	158~62, 176
『地方の聞書』	48~9, 163~4

『地方凡例録』	31, 88, 100, 146, 152, 164, 168, 170~7
猪垣	47~8
持続的産出	188, 191, 193, 204~5, 238
シデ	224
地頭	20, 98
『信濃毎日新聞』	266, 268
『祀部職掌類聚』	168
「島津氏分国検地斗代注文」	139
『四民格致重宝記』	158
主穀生産型焼畑	41
樹種変換	215, 223~6, 228, 230, 240, 256
樹木栽培	16, 21, 55, 58~9, 189
『貞享風俗帳』	88
庄内藩	64
「定納一紙」	67
「定納之事」	66~7
照葉樹林文化論	7, 10, 14, 18
正龍寺	137
『植物学雑誌』	211
織豊検地	99, 102
植民地主義	18
植民地的環境主義	275, 277, 280, 291, 293, 297, 304, 313~4
植民地的近代	277, 314
植民地的言説	277, 288, 314
植民地林学	26, 28, 188, 190~2, 240, 290
諸国山川掟	27, 162
白岩一揆	62, 70
「白岩目安之事」	87
シラカバ	269
シラビン(シラベ)(白檜)	38, 215, 218~9, 238
人為の火	5, 12, 22~3, 25~6, 32, 37, 59, 195, 200~1, 204, 209, 241, 243~4, 271, 313, 319, 323~4
心象地理	288
新庄藩	64
森林局	188, 190
「森林原野山岳又ハ荒蕪地火入及焚火取締規則」	264
森林主事	310
森林水源枯渴論	245

森林の資源化	243~4, 262
森林博覧会	213
森林法	188, 201, 244, 247, 249, 280
森林令	291
水源涵養	189, 193, 197, 203~4, 235
「周防国都濃郡検地打渡坪付」	116
スギ(杉)	38, 52, 55~9, 169, 197, 203, 237
スゲ	258
ススキ	258
『正界録』	158
西南日本外帯	38, 49, 59, 91
「西南日本型」(焼畑)	49
世界農業センサス	9, 40, 106
関ヶ原の戦	43, 110, 135
施肥	13, 48, 171, 300, 313
遷移畑	6, 12
戦国大名検地	99, 102, 115~6
「禅定寺打渡坪付」	117
専門家専制的な構造	186, 308, 325
草原の焼畑	88~9, 171
総合地球環境学研究所	17
『総督府調査資料』	297
『増補田園類説』	152
ソーリ(そうり)	129, 141
属人主義	66~7
属地主義	66
「袖乞」慣行	14
ソバ(蕎麦)	41, 47~9, 87~9, 91, 109, 135, 139, 169, 171, 295, 300
村落類型(観)	23, 152, 177
た行	
ターラント高等山林学校	191~2
第一の火	4, 7
第一期森林治水事業	199, 201, 204
退行遷移	192, 198, 201
『大固朱引御検地帳』	118
ダイコン(大根)	41, 88
第三の火	7
ダイズ(大豆)	41, 48, 87, 89, 109, 169
第二の火	4, 7
大日本山林会	199, 255

『大日本山林会報』	212, 218~9, 255, 261~2
『大日本植物帯調査報告』	212~3, 224, 238
「台湾森林図」	227
台湾領有	32
タカキビ	41
高崎藩	168, 171
高島藩	123~4
「高原村郷鑑帳」	52
竹の焼畑	11, 23
『田島郷御検地帳』	121
嘆願書	48, 53~5
短期休閑	100, 128, 145, 163
チーク	188~9
『地学雑誌』	212
地球温暖化問題	186
『地教用説集』	158
知的征服	314
「茅原野郷検地目録」	142
チャ(茶)(チャノキ)	53~6, 178
中間温帯	230
『中外日報』	306~7
『長興寺領検地帳』	119
朝鮮山林会	278
『朝鮮山林会報』	304, 308~9
『朝鮮新聞』	309
『朝鮮総督府月報』	288
朝鮮部落調査	293
「朝鮮林野分布図」	32, 197~8, 278, 281
~2, 285, 287~90, 292, 312	
直接的な森林の有用性	189
地理局	213
『地理細論集』	152, 158, 163, 165~6, 175
ツブラジイ	38
『都留郡村高帳』	135
帝国主義	7, 187, 323
帝国山林会	199
帝国農会	260
『帝国農会報』	261
帝国百科全書	212
帝国林学会議	190

出作り  
 40, 50, 55, 66~7, 69, 76, 86, 92, 124  
 「出羽国御検地条々」 122  
 「出羽国天童之郡田麦野村縄打水帳」 64  
 天正検地 110, 117, 119  
 『田法記』 158  
 ドイツ林学 28, 191, 243  
 『東京経済雑誌』 290  
 東京高等師範学校 293  
 東京山林学校 32, 191, 194, 211, 254  
 東京大学東洋文化研究所 278  
 (東京)帝国大学 31, 191~3, 209, 238,  
 254, 256, 258, 260, 264, 268~9, 290  
 東京農林学校 215  
 トウヒ 38, 216  
 東北芸術工科大学 17  
 『東洋学芸雑誌』 212  
 『督農要略』 158, 160  
 「土佐国土佐郡森村高山切畑地検帳」 114  
 斗代 43~4, 53, 66~7, 69, 71, 100~3,  
 106, 108~9, 111, 113, 117~21, 127~8,  
 130~2, 134~6, 139~40, 142~3, 146,  
 155, 159, 161, 163  
 斗代取米法 66, 70  
 土地生産性 60, 173, 178, 288, 303  
 トドマツ(榎松) 218~9, 238  
 「豊臣秀吉朱印検地斗代定」 139  
 『東亜日報』 306~7

### な行

「直江兼統四季農戒書」 89  
 長野県臨時勸業諮問会 263  
 薙畑 41, 128, 165~7, 169~70, 173, 175  
 ナギハタ型焼畑 41, 49  
 名子 92  
 夏焼き 30, 41, 62, 87~9, 91  
 ナラ(柎・檜) 168, 231~2, 235, 269  
 ナラ林文化論 62  
 新見荘 20  
 西筑摩郡会 266  
 西筑摩郡牛馬特産組合 267  
 日韓併合 275, 280, 290  
 「日本森林植物帯論」 31, 192, 194, 206,

209~11, 217, 227, 231, 233~4, 238~  
 40, 256, 264, 286, 290, 322  
 熱帯林学 28, 188  
 農書 13, 88, 153, 163, 178  
 『農政座右』 174~5  
 『農政本論』 158, 160, 166, 174, 177  
 『農譚拾穂』 166~7  
 『農譚藪』 158  
 『野宇村検地帳』 127  
 野畑(野畠) 43, 100, 106, 108, 131, 141,  
 143, 165, 169~70

### は行

ハイマツ(偃松) 215~6, 218~9  
 パイロフォビア(恐火症) 7, 21~2  
 「白頭山節」 309  
 幕府領 44, 53, 55, 70, 73, 87, 157~9  
 畠折法 143  
 「咸鏡南道甲山郡火田民家放火事件ト諺文  
 紙」 305  
 春焼き 41, 47~8, 62, 87~9, 91  
 半栽培 6, 12, 22, 51, 54~5, 57, 237, 240,  
 244, 261, 320  
 半自然草原 237  
 ハンノキ 198, 235, 269  
 火一休閑地システム 5  
 「火入及焚火取締規則」 265  
 『火入ニ関スル事例』 200, 203, 262, 268  
 ヒエ(稗) 41, 47~8, 87~9, 109, 166,  
 169, 175, 177  
 火起こし棒耕作 4  
 ヒノキ(檜) 38, 55, 58~9, 169, 203, 237  
 福島町農会 265~6, 270  
 福昌寺 136~7  
 「福昌寺領目録」 136  
 「伏屋伝七等検地役人連署打渡坪付」 102  
 ブナ(山毛櫨・榲) 38, 215, 219, 222, 224, 230, 238  
 部落有林野 249, 251~2  
 プレーリー 4  
 文化景観 4  
 『文化風俗帳』 88, 91  
 分国検地(令) 107, 114~6, 141

分付記載	66, 82
文祿検地	43, 54, 107, 110, 119, 130, 132
～5, 140～2, 146	
保安林	201
北鮮開拓	302
『北鮮開拓』	304
保護林	52
本多造林学	31, 196, 217～8

## ま行

秣場	89, 200, 223, 243, 247, 260, 263
『眞志野村外山畠帳』	123
マツ(松)	51, 57, 169, 224～5, 237
松江藩	158
『満州小唄』	309
ミツマタ	59
水戸藩	174
『美馬郡口山半平山一宇山穴吹村拝村御検地帳』	111
宮の平遺跡	40
ミュンヘン大学	215, 218
『民間備荒録』	177～8
ムギ(麦)	41, 49, 59
エンバク(燕麦)	294～5, 300
オオムギ(大麦)	42
コムギ(小麦)	42
『無枕雑補家宝記』	121
むつし	17
『陸奥国御検地条々』	122
村柄	171～2
無立木地	
251～2, 255, 261, 263, 282, 285, 289, 291	
明治神宮	228
『毎日申報』	305, 307
モミ	38, 216

## や行

焼畑悪玉論	6, 16, 26
『焼畑及切替畑ニ関スル調査』	
9, 164, 175, 202～3	
山改め(山検地)	113, 133
山形藩	
61, 63～4, 67, 70～1, 73, 92～3, 155	

『山川正龍寺領目録』	137～8
ヤマチャ	10, 59
陽樹	229～30, 233～4, 239
榕(樹)	215, 218～9
榕樹帯	217
要存予定林野	285, 292, 297
吉野林業	42, 52, 58, 196
『吉野林業全書』	58
米沢藩	64, 89

## ら行

陸軍参謀本部	251
掠奪農法	300, 303, 313
領域型荘園	21
領主的林業	17, 27
林業前作農業型焼畑	186
輪作	12, 41
臨時水源経営調査委員会(東京市)	195～7
臨時土地調査局	292
林籍調査	280, 282
『林野に関する調査』	260, 262
『林野火入取締ノ件』	200, 253
労働生産性	6, 93, 173

## わ行

『若林農書』	161～2
和歌山藩	43～4, 47, 52, 163
『和州吉野郡群山記』	47
早稲田大学	297
ワラビ	3, 51, 56, 258



【地名】

あ行	
会津郡	121
赤岡村(陸奥国)	121
赤城山	169, 171
秋山郷(新潟県・長野県)	9
朝日村(甲斐国)	133
天谷(越前国)	102~3
鴨緑江	309
アメリカ合衆国	190, 210
新倉村(甲斐国)	135
有田川	40
有田郡	46
飯石郡	117
飯高郡	43, 132
飯田市	118
井川郷(駿河国)	129
イギリス	4, 187~8, 190, 193
伊豆市	235
和泉山地	42
猪谷(井谷)村(紀伊国)	46
イタリア	232
一字山(阿波国)	111
伊都郡	42, 44
糸島市	140
井戸村(大和国)	54~5
伊那郡	118, 122, 127~8
指宿市	137
祖谷山(阿波国)	111
入来院(薩摩国)	138
岩科郷(伊豆国)	143
岩根沢村(出羽国)	75
岩本村(肥後国)	113
インド	187~9, 193, 215
上野原市	134
上山市	79
宇久須村(伊豆国)	142
雲南市	117

越前海岸	106
越前市	104
越前町	102, 104
エディンバラ	213
意宇郡	117
大井川	16, 129
オーストラリア	4~5, 217
オーストリア	196
大沢里村(伊豆国)	141~2
大滝村(越前国)	104~5
大駄郷(武蔵国)	145
大野村(甲斐国)	134
大味浦(越前国)	104~5
大淀村(出羽国)	73
大蔵村(出羽国)	71
小川郷(大和国)	51
置賜郡	63~4
大樟浦(越前国)	104, 106
押切川	75
小白府村(出羽国)	67
小深村(下野国)	140

か行

開田村	264
懸谷郷(出雲国)	117
鹿児島市	137
笠松村(紀伊国)	54
持田荘(紀伊国)	42
月山	84
勝間田中村(遠江国)	119
かつらぎ町	109
甲山(郡)	294, 302
上阿久原郷(武蔵国)	145
上伊那郡	124
神川町	144
樺太	217, 219, 290
川上郷(大和国)	50, 132
川上村	50, 54, 132
江界(郡)	302, 308~9
紀伊山地	29, 37~8, 40~2, 44, 47~9, 55, 57~9, 98, 109~10
菊池市	112~3
木曾町	264~5

木曾山	17, 27
北野沢郷(伊豆国)	142
北眞志野村(信濃国)	124
紀ノ川(吉野川)	37~8, 40, 42~4, 46~8, 51~4, 57, 59, 110, 164
君津市	235
九州山地	49, 59
清澄山	256, 258~9, 264
櫛田川	43, 46
櫛引郡	64
口山(阿波国)	111
忽那島(伊予国)	108
球磨郡	112
熊野川(十津川)	38, 41~2, 44, 46~7, 57
熊野市	109
雲見村(伊豆国)	141
栗屋浦(越前国)	104~6
鋏形村(伊勢国)	132
郡内領(甲斐国)	133, 169~70
京城	282
毛原浦(越前国)	104~6
蓋馬高原	294, 297
小明見村(甲斐国)	134
児玉郡	145
牛房野村(出羽国)	71
小森村(紀伊国)	109

## さ行

寒河江川	62, 70, 84
三水郡	302
沢渡村(出羽国)	69
椎葉山(日向国)	14, 17, 27, 99, 177
四国山地	9, 49, 59, 114
静岡市	128
新義州	294
新興郡	302
志摩郡	140
下吾野郷(武蔵国)	144
下阿久原郷(武蔵国)	145
下郷町	121
常明寺村(出羽国)	67, 69
白岩本道寺村(出羽国)	89
白岩村(出羽国)	71

白鷹丘陵	79
白屋村(大和国)	50~2, 56~7
隅田荘(紀伊国)	42, 110
砂子関村(出羽国)	71, 75, 84, 87
諏訪郡	124
諏訪市	123
寒川村(紀伊国)	46
ソウル	282
西興里(咸鏡南道)	295

## た行

田川郡	64
武木村(大和国)	50
多気町	132
滝平村(出羽国)	69
多摩川	195~6
多摩郡	144
田麦野村(出羽国)	64, 67, 69, 75, 79
秩父郡	144
茅原野郷(伊豆国)	142
慈城郡	302
長津(郡)	294~5, 302
中国山地	114
都濃郡	116
都留市	133
天童市	75
天竜川	14
ドイツ	188, 191, 193, 196, 215, 217~8, 232

徳川郡	308
十津川郷(大和国)	40, 44, 47, 109
十津川村	109
利根川	195
富栖村(兵庫県)	200
虎岩村(信濃国)	118
東上面(咸鏡南道)	302

## な行

那賀川	59
那賀郡	42, 141
長師村(伊予国)	108
名手荘(紀伊国)	42
行沢村(出羽国)	69

新高山	32, 194, 211, 280
西伊豆町	141
西川町	84
西筑摩郡	264~6
仁科本郷(伊豆国)	143
野川村(出羽国)	69, 92

は行

バイエルン王国	215
榛原郡	119
芳賀郡	140
白山麓	9~10, 17
長谷堂村(出羽国)	69
八経ヶ岳	38
バプアニューギニア	185
咸興(郡)	294
榛名山	169, 171
班蛇口村(肥後国)	112
半平山(阿波国)	111
飯能市	144
日高川	44, 46
日高郡	44, 46, 54
人知村(大和国)	55
檜原村	144
姫路市	200
ビルマ(ミャンマー)	189
フィリピン	217
深沢村(出羽国)	69
福井市	104
福島町	262, 265~7, 269~70
釜山	282
豊山(郡)	302
富士吉田市	134~5
赴戦郡	302
厚昌(郡)	302
フランス	213
恵山鎮	294, 299, 302
辺田村(肥後国)	112
本庄市	145
ボンポルム(咸鏡南道)	302

ま行

牧之原市	119
------	-----

松阪市	132
松崎町	141
松山市	108
万善寺村(出羽国)	69, 88
水見色村(駿河国)	128~9
南会津町	121
南真志野村(信濃国)	124
箕輪町	124
美馬郡	111
宮川	38
三好市	111
茂山郡	302

狸森村(出羽国)	66~7, 69, 75, 79, 89~91
村山郡	61~4, 70~1, 73, 86, 88~9, 91, 93~4, 98
牟婁郡	44, 109
最上川	75, 92
最上郡	63~4
茂木町	140
森村(土佐国)	114
門伝村(出羽国)	67

や行

屋久島	15
山川港	137~8
山川町	137
山口村(出羽国)	67, 69
山寺村(出羽国)	71
玉山(新高山)	32, 194, 197, 211, 217, 227, 280
湯殿山	86
横川郷(伊豆国)	142
吉野郡	29, 40~1, 43~4, 46, 48, 50, 53~4, 109~10, 132, 157

ら行

六呂木村(伊勢国)	132
-----------	-----

◎著者略歴◎

米家泰作 (こめいえ たいさく)

1970年奈良県生。京都大学文学研究科博士後期課程(地理学)修了, 博士(文学), 京都大学文学研究科准教授。愛知県立大学文学部講師, 同助教授, 京都大学文学研究科助教授を経て, 現職。

主要著書に『中・近世山村の景観と構造』(校倉書房, 2002年), 『モダニティの歴史地理』(共訳, 古今書院, 2005年), *A Landscape History of Japan* (分担執筆, 京都大学学術出版会, 2010年)。

もり ひ かんきょう し  
森と火の環境史  
——きんせい きんぐいにほん近世・近代日本の焼畑と植生——

---

2019(令和元)年11月25日発行

著者 米家泰作

発行者 田中 大

発行所 株式会社 思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355

電話 075-533-6860(代表)

---

装幀 北尾崇 (HON DESIGN)

印刷 株式会社 図書 同朋舎  
製本 株式会社 印刷 同朋舎

---

© T. Komeie 2019

ISBN978-4-7842-1973-5 C3061